Canon

# EOS Kiss Digital N

Canon EOS Kiss Digital N 使用説明書 J

# キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS Kiss Digital Nは、優れた機動性を備えた高性能デジタルAF一眼レフカメラです。本機は、有効画素数約800万・高精細CMOSセンサー搭載、全EFレンズ群対応（EF-Sレンズを含む）、いつでもすぐに撮影できる画期的な機動性、全自動撮影から高度な応用撮影にまで最適対応する豊富な撮影機能、ダイレクトプリント機能など、さまざまな特長を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

また、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（8、9ページ）をお読みください。

## 試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをして、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やCFカードなどの不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

## 著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CanonおよびEOSは、キヤノン株式会社の商標です。
- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- ArcSoft、ArcSoftロゴ、ArcSoft PhotoStudioは、ArcSoft,Inc.の商標、または登録商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された、米国アップルコンピュータ社の商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

# 付属品の確認

ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

---

- □ **EOS Kiss Digital N**／カメラ本体（アイカップ、ボディキャップ付き、日付/時計機能用リチウム電池内蔵）
- □ **EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USM**／レンズ（レンズキャップ、ダストキャップ付き）　＊レンズ付きキットをお買い求めの場合
- □ **バッテリーパック NB-2LH**（保護カバー付き）
- □ **バッテリーチャージャー CB-2LW**
- □ **インターフェースケーブル IFC-400PCU**
- □ **ビデオケーブル VC-100**
- □ **ワイドストラップ EW-100DBII**（アイピースカバー付き）

---

- □ **EOS DIGITAL Solution Disk**（イオス デジタル ソリューション ディスク）（CD-ROM）
- □ **ArcSoft PhotoStudio Disk**（アークソフト フォトスタジオ ディスク）（CD-ROM）
- □ **ソフトウェア使用説明書**（CD-ROM／PDF形式）

---

- □ **ポケットガイド**
  すぐに撮影したい方は、このポケットガイドをご覧ください。
- □ **EOS Kiss Digital N使用説明書**（本書）
- □ **ソフトウェアガイド**
  付属ソフトウェアの概要とインストール方法を説明しています。
- □ **バッテリーパック NB-2LH使用説明書**
- □ **レンズ使用説明書**　＊レンズ付きキットをお買い求めの場合

---

- □ **お客様ご相談窓口一覧／安全上のご注意**
- □ **カメラ保証書**
- □ **レンズ保証書**　＊レンズ付きキットをお買い求めの場合

---

※ 付属品は、なくさないようご注意ください。

※ 撮影画像を記録する**CFカードは付属していません**ので､別途ご購入ください。なお、CFカードはキヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

# 目　次

## はじめに



## 1　撮影前の準備と基本操作　19



## 2　カメラまかせの自動撮影　43



## 3　画像に関する設定　51



## 4　AF/ 測光 / ドライブの設定　69

# やりたいこと目次

## 画質



## ピント合わせ



## ドライブ



## 撮影／ストロボ

## 再生／プリント



## 電源

# 取り扱い上のご注意

## カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理サービスご相談窓口にご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理サービスご相談窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。レンズ、CFカード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理サービスご相談窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

## 表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

## CFカードについて

- CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CF カードが変形して使用できなくなります。
- CFカードに液体をこぼさないでください。
- 大切な画像データを守るため、CF カードは必ずケースなどに入れて保管してください。
- キヤノン製以外のCFカードを使用すると、画像の記録・再生ができないことがあります。このようなときは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。
- 曲げたり、強い力や衝撃を与えたりしないでください。
- 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所に保管しないでください。

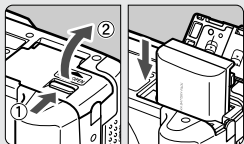
## レンズの接点について

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

## 妨害電波自主規制について

このカメラ（本機）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラスB情報技術装置です。このカメラ（本機）は、家庭環境で使用することを目的としていますが、このカメラ（本機）をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

# すぐ撮影するには

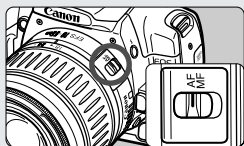
**1**

**バッテリーを入れる**（p.22）

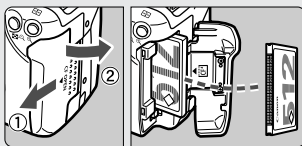
バッテリーの充電方法については20ページを参照してください。

**2**

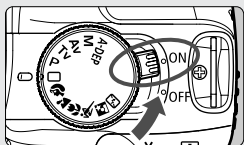
**レンズを取り付ける**（p.25）

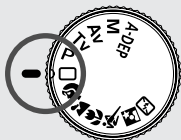
EF-Sレンズは白い指標、EF-Sレンズ以外は赤い指標に合わせて取り付けます。

**3**

**レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする**（p.25）

**4**

**CFスロットカバーを開け、CFカードを入れる**（p.26）

CFカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。

**5**

**電源スイッチを〈ON〉にする**（p.28）

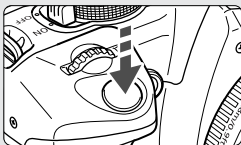
**6**

**モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする**（p.44）

撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

**7**

**ピントを合わせる**（p.28）

写したいものにAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。

**8**

**撮影する**（p.28）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

**9**

**撮影した画像を確認する**（p.104）

撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『撮影画像を再生する』（p.107）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『撮影画像を消去する』（p.116）を参照してください。

# 各部の名称

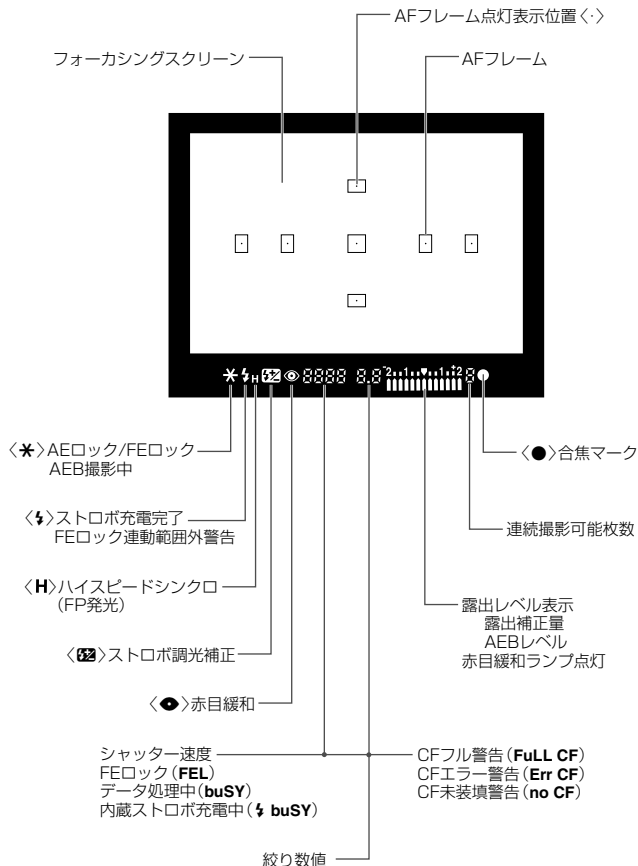
（p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

ボディキャップ(p.25)

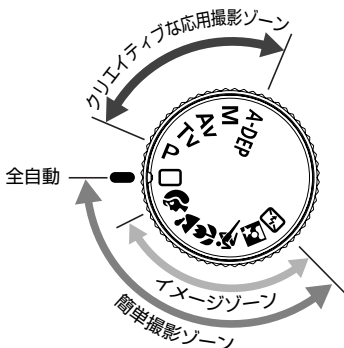
視度調整つまみ（p.42）
アイカップ（p.50）
ファインダー接眼部
表示パネル（p.14）
〈MENU〉メニューボタン（p.31）
〈INFO.〉インフォ／トリミング枠縦横切り換えボタン（p.68、107／134）
〈JUMP〉ジャンプボタン（p.111）
〈▶〉再生ボタン（p.107）
〈🗑〉消去ボタン（p.116）
液晶モニター（p.34）
〈⎙／☼〉イージープリント／表示パネル照明ボタン（p.136／102）
三脚ねじ穴
アクセスランプ（p.27）
十字キー（p.30）
〈▲ ISO〉ISO感度設定ボタン（p.55）
〈▼ WB〉ホワイトバランス選択ボタン（p.56）
〈◀ ◉〉 測光モード選択ボタン（p.77）
〈▶ AF〉 AFモード選択ボタン（p.70）
〈⏲／⧉〉ドライブモード選択ボタン（p.78）
〈Av±〉絞り数値／露出補正設定ボタン（p.86／89）
〈✱／⊞・Q〉AEロック/FEロックボタン／インデックス/縮小ボタン（p.92/99／109/110、134）
〈⊡／⊕〉AFフレーム選択／拡大ボタン（p.73／110、134）
CFカードスロットカバー（p.26）
DCコード通し部（p.24）
バッテリー室ふた開放レバー（p.22）
バッテリー室ふた（p.22）
〈SET〉設定ボタン（p.31）
CFカードスロット（p.26）
CFカード取り出しボタン（p.26）
MENU
INFO.
JUMP
ONE SHOT
AI SERVO
AI FOCUS
ISO
AF
SET
WB
Canon
CF OPEN

## 表示パネル

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

## ファインダー内表示

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

## モードダイヤル

モードダイヤルは2つの機能ゾーンに分けられています。

### ① 簡単撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

□　：**全自動**（p.44）
カメラまかせの全自動撮影ができます。

**イメージゾーン**

被写体に応じてカメラまかせの全自動撮影ができます。

- ：ポートレート（p.46）
- ：風景（p.46）
- ：クローズアップ（p.46）
- ：スポーツ（p.47）
- ：夜景ポートレート（p.47）
- ：ストロボ発光禁止（p.47）

### ② クリエイティブな応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

**P**　：プログラムAE（p.80）
**Tv**　：シャッター優先AE（p.82）
**Av**　：絞り優先AE（p.84）
**M**　：マニュアル露出（p.86）
**A-DEP**：自動深度優先AE（p.88）

## バッテリーチャージャー CB-2LW

バッテリーパックの充電器です。（p.20）

## ACアダプターキット ACK-DC20（別売）

家庭用電源でカメラを使用するときに使います。（p.24）

**コンパクトパワーアダプター CA-PS700**

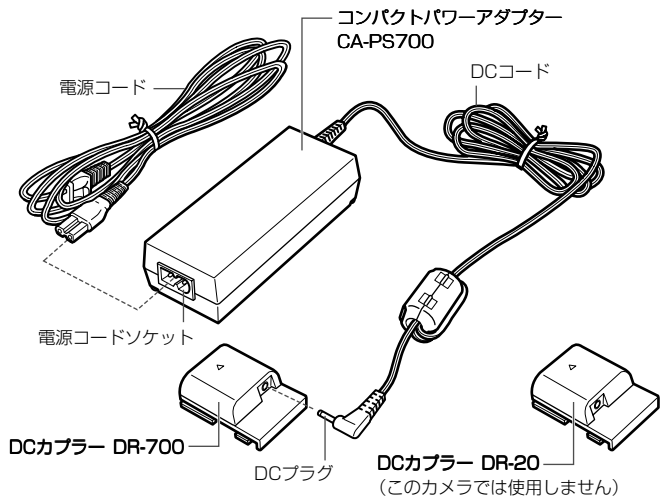
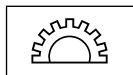
電源コード

DCコード

電源コードソケット

**DCカプラー DR-700**

DCプラグ

**DCカプラー DR-20**
（このカメラでは使用しません）

# 本使用説明書上のおことわり

● 本文中の〈⌒〉は、電子ダイヤルを示しています。

● 本文中の〈✥〉や〈▲▼〉〈◀▶〉は十字キーのボタンを示しています。〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉はそれぞれ十字キーの上、下、左、右のボタンを示しています。

● 本文中の〈SET〉は、設定ボタンを示しています。メニュー機能、カスタム機能の設定などに使用します。

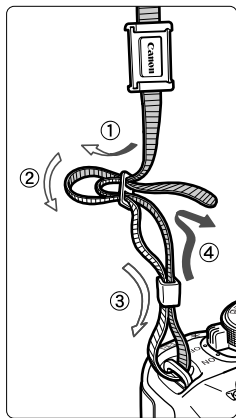
● 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。
● （p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。
● ページタイトル右の応用マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。
● 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に、操作方法を説明しています。
● 本書では、EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
● メニュー機能およびカスタム機能は、初期状態を前提に説明しています。
● MENUは、メニュー機能で設定変更できることを示しています。
● （⏱4）／（⏱6）／（⏱16）は、ボタンから指を離しても、その状態がタイマーの働きにより、それぞれ4秒間／6秒間／16秒間保持されることを示しています。
● 本文中の以下のマークがついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

⚠：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

📝：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

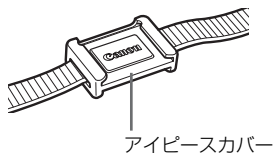
# 1

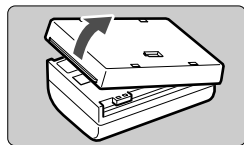
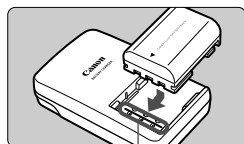
# 撮影前の準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

**ストラップ（吊りひも）の取り付け方**

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。止め具の部分 のたるみを取り、引っぱっても止め具の部分がゆるまないことを確認してください。

● ストラップにはアイピースカバーが付いています。（p.50）

アイピースカバー

# バッテリーを充電する

バッテリーの詳しい取り扱い方法については、バッテリーパックNB-2LHの使用説明書を参照してください。

## 1 保護カバーを外す

取り付け指標

## 2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーチャージャーの線（取り付け指標）にバッテリーの先端を合わせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

## 3 電源プラグを起こす

- バッテリーチャージャーのプラグを矢印の方向に起こします。

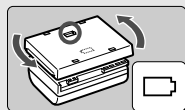
充電ランプ

## 4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
- ➡ 充電が完了すると緑色に点灯します。
- **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、約90分です。**

- バッテリーパックNB-2LH以外は充電しないでください。
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、カメラを使用しなくても微少の電流が流れて過放電になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。カメラを使用しないときは、バッテリーをカメラから取り出し、ショート防止用の保護カバーを取り付けて保管してください。カメラを使用するときは、必ずバッテリーを充電してから使用してください。

- バッテリーパックの保護カバーには、任意に取り付ける向きを変えることで、充電済みかそうでないかを自分で判別できるよう、窓がついています。

- 充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜いてください。
- 充電時間は、周囲の温度やバッテリーの充電状態によって異なります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには10℃～30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下ではバッテリーの性能が一時的に低下し、使用できる時間が短くなることがあります。
- 規定の充電をしたにもかかわらず、著しく使用できる時間が低下したときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

- この製品には、充電式のリチウムイオン電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- この電池の回収、リサイクルについては、下記のキヤノンホームページで確認できます。

  キヤノンサポートページ：canon.jp/support

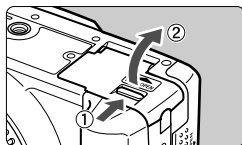
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店のお問い合わせは、以下へお願いします。
  - ・製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  - ・（社）電池工業会小形二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局*

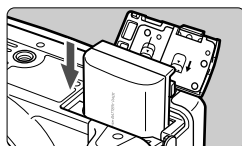
    *（社）電池工業会 電話番号 03-3434-0261

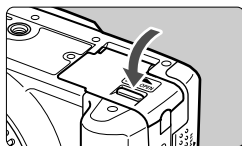
**リサイクル時のご注意**：電池を分解しないでください。

# バッテリーを入れる／取り出す

## 入れ方

充電したバッテリーパックNB-2LHをカメラに入れます。

### 1 ふたを開ける

● レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

### 2 バッテリーを入れる

● バッテリーの接点を下にして入れてください。
● ロック位置までしっかりと入れてください。

### 3 ふたを閉める

● 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

## バッテリーチェックについて

バッテリーの残量は、電源スイッチを〈ON〉(p.28)にしたときに、3段階で表示されます。

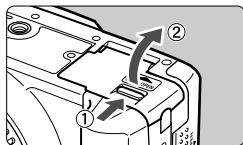
：バッテリーの容量は十分です。
：残量が少なくなっています。
：バッテリーを充電してください。

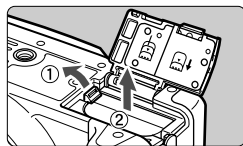
**撮影可能枚数の目安** [枚]

| 温度 | 撮影条件 | |
|---|---|---|
| | ストロボ撮影なし | 50%ストロボ撮影 |
| 常温（＋20℃） | 約600 | 約400 |
| 低温（0℃） | 約450 | 約350 |

- 撮影可能枚数は、フル充電のNB-2LH使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

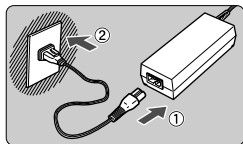
- 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AF（オートフォーカス）のみ行って撮影しない操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズの種類によっては、撮影可能枚数が少なくなります。

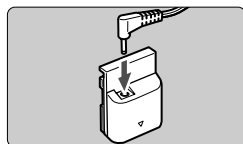
## 取り出し方

### 1 ふたを開ける

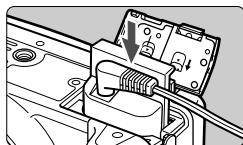
- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

### 2 バッテリーを取り出す

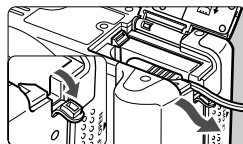
- バッテリーロックレバーを矢印方向にスライドさせて、ロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに保護カバーを取り付けてください。

# 家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-DC20（別売）を使うと、家庭用電源を使用してバッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

## 1 電源コードを接続する

- 電源コードをコンパクトパワーアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

## 2 DCカプラーDR-700を接続する

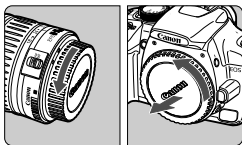
- コンパクトパワーアダプターのDCプラグをDC カプラー DR-700（p.17）のソケットに差し込みます。
- DCカプラー DR-20は、このカメラでは使用できません。

## 3 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れます。

## 4 DCコードを通す

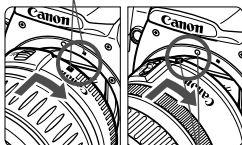
- DC コード通し部のカバーを開き、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。

# レンズを取り付ける／取り外す

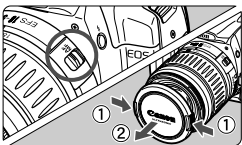
## 取り付け方

### 1 キャップを外す

● レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

EF-Sレンズ取り付け指標

EFレンズ取り付け指標

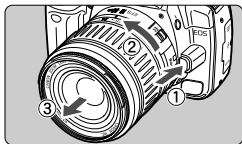
### 2 レンズを取り付ける

● EF-Sレンズとカメラの、白いEF-Sレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

● EF-Sレンズ以外を取り付けるときは、赤いEFレンズ取り付け指標に合わせます。

### 3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

● 〈MF〉になっているとオートフォーカスできません。

### 4 レンズキャップを外す

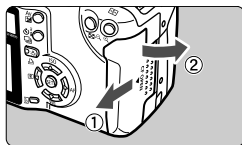
## 取り外し方

### レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

● 回転が止まるまで回してから、取り外します。

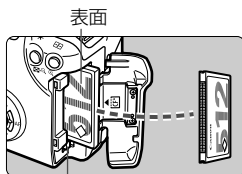
レンズの取り付け／取り外しを行う際に、ゴミやホコリがマウント部からカメラ内部に入らないよう、十分に注意してください。

# CF カードを入れる／取り出す

撮影した画像は、CFカード（別売）に記録されます。
CFカードには、厚さの異なるタイプ I、タイプ II がありますが、このカメラでは、どちらのタイプでも使用できます。また、マイクロドライブや2GB以上の大容量のCFカードも使用できます。

## 入れ方

### 1 カバーを開ける

● カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。

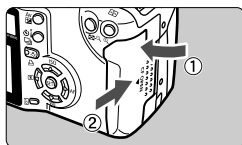
表面

CFカード
取り出しボタン

### 2 CFカードを入れる

● キヤノン製 CF カードの使用をおすすめします。
● **CFカードを入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。**
**図のように CFカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
➡ CF カード取り出しボタンが飛び出します。

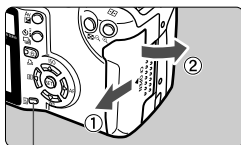
①
②

撮影可能枚数

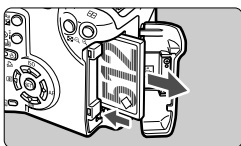
129

### 3 カバーを閉める

● カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
● 電源スイッチを〈ON〉にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

撮影可能枚数は、使用するCFカードの空き容量や、設定したISO感度などにより変わります。

## 取り出し方

アクセスランプ

### 1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 表示パネルに「**buSY**」が表示されていないことを確認します。
- アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。

### 2 CFカードを取り出す

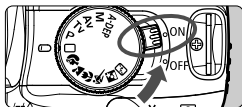
- CF カード取り出しボタンを押し込みます。
- ➡ CFカードが出てきます。
- カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点滅しているときは、CFカードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合によってはCFカードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。**
  **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  **・CFカードスロットカバーを開ける**
  **・バッテリーを取り出す**
- 画像が記録されているCFカードを使用すると、このカメラで撮影した画像のファイル番号が、すでにCFカードに記録されている画像の続き番号になることがあります。ファイル番号0001から撮影したいときは、ファイル番号の設定を［**オートリセット**］（p.67）にしたあと、初期化された別のCFカードを使用してください。
- 表示パネルに「**Err CF**（エラーシーエフ）」が表示されたときは、118ページを参照してください。
- 低容量のCFカードでは、画像サイズが大きくなると、CFカードに記録できないことがあります。
- マイクロドライブは、CFカードに比べると振動や衝撃に弱いため、特に記録/再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分に注意してください。

メニュー［**𝐘𝐓1 カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、CFカードを入れ忘れたまま撮影することを防止できます。（p.41）

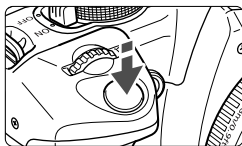
# 撮影の基本操作

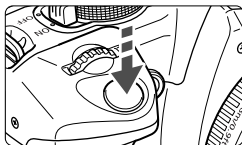
## 電源スイッチ

このカメラは電源スイッチを入れて初めて作動します。

〈ON〉 ：カメラが作動します。
〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

- バッテリーの消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを押すと再度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［**1 オートパワーオフ**］で変更することができます。（p.41）
- CFカードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、あと何枚で画像記録が終わるかを表示パネルの〈▮〉の数で表示します。画像記録が終了すると、表示が消えて電源が切れます。

## シャッターボタン

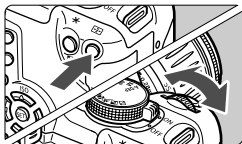
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

### 半押し

AF（オートフォーカス）によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます。（⏱4）

### 全押し

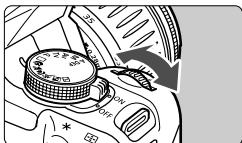
シャッターが切れて撮影されます。

- シャッターボタン半押し後のタイマー（⏱4）が切れた状態から撮影するときは、シャッターボタン半押し後、一呼吸置いてから全押ししてください。シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- カメラがどんな状態（画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など）にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります（ダイレクトプリント出力中を除く）。
- シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ブレ」といい、全体がぼけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために次の点に注意してください。また、『カメラの構え方』(p.42）もあわせてお読みください。
  ・カメラが動かないようにしっかり構えます。
  ・シャッターボタンに指の腹をかけ、カメラ全体を握るような感じで、静かに押します。

## 〈⚙〉電子ダイヤルによる基本操作

〈⚙〉は、おもに撮影に関する選択・設定に使用します。

### (1) ボタンを押したあと、〈⚙〉を回す

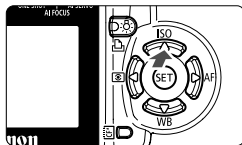
撮影準備状態でボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間にファインダー内または表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。
タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AFフレームの選択に使用します。
- 〈MENU〉ボタンを押したあと、〈⚙〉でもメニュー項目の選択ができます。

### (2) 〈⚙〉のみを回す

表示パネルやファインダー内表示を見ながら〈⚙〉を回します。

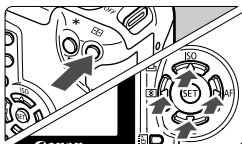
- シャッター速度や絞り数値などの設定に使用します。

## 〈✥〉十字キーによる基本操作

〈✥〉は、撮影に関する選択・設定と、液晶モニターの表示内容の選択に使用します。

**(1) 〈✥〉のみを押す**

撮影準備状態で〈✥〉十字キーのいずれかを押すと、各ボタンに割り当てられた、メニュー機能内の項目が直接表示され、迅速に設定を行うことができます。

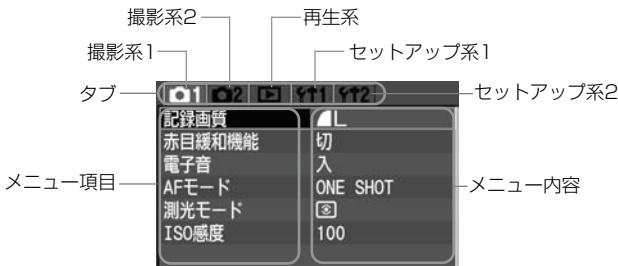
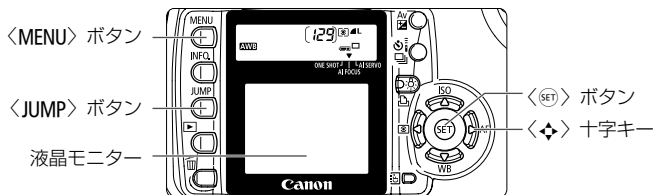
〈▲ ISO〉ISO感度
〈▼ WB〉ホワイトバランス
〈◀ ◉〉 測光モード
〈▶ AF〉 AFモード

〈✥〉を押して希望する内容を選び、〈SET〉を押して設定します。

**(2) ボタンを押したあと、〈✥〉を押す**

撮影準備状態でボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間にファインダー内または表示パネルを見ながら〈✥〉十字キーを押します。タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AFフレームの選択に使用します。
- 液晶モニター使用時は（タイマーなし）、メニュー機能の選択、再生時の記録画像の選択などに使用します。

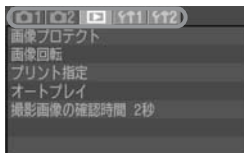
# メニュー機能の操作と設定

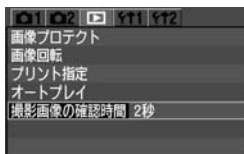
このカメラでは、記録画質や現像パラメーター、日付/時刻、カスタム機能など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈✥〉十字キー、〈SET〉を使って行います。

| アイコン | 色 | 系統 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 📷1／📷2 | 赤 | 撮影系 | 撮影に関する項目 |
| ▶ | 青 | 再生系 | 撮影した画像の再生操作に関する項目 |
| 🔧1／🔧2 | 黄 | セットアップ系 | カメラの基本機能に関する項目 |

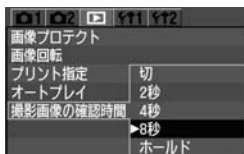
- 〈JUMP〉ボタンを押すと、タブが切り換わります。
- 簡単撮影ゾーンでは、表示されないメニュー項目があります。（p.33）
- メニュー機能の選択操作や、再生関連操作を〈⚙〉で行うこともできます。
- メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

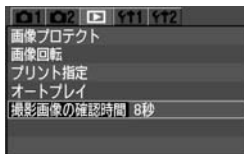
## メニュー機能の設定操作

### 1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。もう一度押すと表示が消えます。

### 2 タブを選ぶ

- 〈JUMP〉ボタンを押してタブ（系統）を選びます。
- 5つのタブが明るく表示されているときは、〈◀▶〉でも選ぶことができます。

### 3 メニュー項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。
- この状態で、〈JUMP〉ボタンを押すと、タブの選択になります。

### 4 メニュー内容を選ぶ

- 〈▲▼〉または〈◀▶〉で内容を選びます。（内容により〈▲▼〉で選ぶ場合と、〈◀▶〉で選ぶ場合があります）

### 5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

### 6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、設定が終了します。

- この項以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 撮影後のCFカード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に、メニュー操作を行うこともできます。

## メニュー機能一覧（1）

〈1〉撮影系1（赤）　参照頁

| | | |
|---|---|---|
| 記録画質 | L／L／M／M／S／S／RAW+L／RAW | 52 |
| 赤目緩和機能 | 切／入 | 98 |
| 電子音 | 入／切 | 50 |
| AFモード | ONE SHOT／AI FOCUS／AI SERVO | 70 |
| 測光モード | ：評価／：部分／：中央部重点平均 | 77 |
| ISO感度 | 100/200/400/800/1600 | 55 |

〈2〉撮影系2（赤）

| | | |
|---|---|---|
| AEB設定 | 1/3段ステップ、±2段 | 90 |
| 調光補正 | 1/3段ステップ、±2段 | 100 |
| ホワイトバランス | AWB／／／／／／／ | 56 |
| WB補正/BKT設定 | WB補正：B/A/M/G寄り各色9段<br>WB-BKT：B/A、M/G方向1段ステップ±3段 | 59<br>60 |
| MWB画像選択 | ホワイトバランスの手動設定 | 57 |
| 色空間 | sRGB／Adobe RGB | 62 |
| 現像パラメーター | パラメーター1、2／セット1、2、3／モノクロ | 63<br>64 |

〈〉再生系（青）

| | | |
|---|---|---|
| 画像プロテクト | 撮影画像の保護 | 115 |
| 画像回転 | 撮影画像の縦横回転 | 113 |
| プリント指定 | プリントする画像を指定（DPOF） | 137 |
| オートプレイ | 撮影画像の自動再生 | 112 |
| 撮影画像の確認時間 | 切／2秒／4秒／8秒／ホールド | 104 |

- 〈2〉撮影系2の画面（タブ）は、簡単撮影ゾーンでは表示されません。
- □の項目は、簡単撮影ゾーンでは表示されません。
- 簡単撮影ゾーンでは、記録画質RAW＋L、RAWは表示されません。

## メニュー機能一覧（2）

### 〈ƳƬ1〉セットアップ系1（黄）

| | | 参照頁 |
|---|---|---|
| オートパワーオフ | 1分／2分／4分／8分／15分／30分／切 | 41 |
| 縦横自動回転表示 | 入／切 | 105 |
| 液晶の明るさ | 5段階調整 | 106 |
| 日付/時刻 | 日付/時刻の設定 | 37 |
| ファイル番号 | 通し番号／オートリセット | 67 |
| CFカード初期化 | 記録内容を初期化して消去 | 118 |
| カードなしレリーズ | する／しない | 41 |

### 〈ƳƬ2〉セットアップ系2（黄）

| | | |
|---|---|---|
| 言語 | 15言語<br>（英語／ドイツ語／フランス語／オランダ語／デンマーク語／フィンランド語／イタリア語／ノルウェー語／スウェーデン語／スペイン語／簡体中国語／ロシア語／繁体中国語／韓国語／日本語） | 36 |
| ビデオ出力方式 | NTSC／PAL | 114 |
| 通信設定 | 印刷/PTP／PC接続 | 121 |
| カスタム機能(C.Fn) | カメラの機能を細かく設定する | 146 |
| 設定解除 | カメラ設定初期化（カメラ設定を初期状態にする） | 35 |
| | カスタム機能一括解除<br>（カスタム機能をすべて解除する） | 147 |
| 撮像素子の清掃 | 撮像素子の清掃時に選択 | 39 |
| ファームウェア Ver. | ファームウェア変更時に選択 | ー |

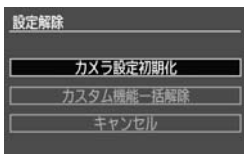
□の項目は、簡単撮影ゾーンでは表示されません。

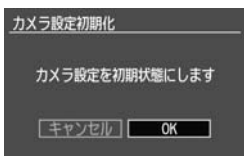
## 液晶モニターについて

- 液晶モニターをファインダーの代わりとして見ながら撮影することはできません。
- 液晶モニターの明るさを、メニュー［**ƳƬ1 液晶の明るさ**］で5段階に調整することができます。（p.106）

## カメラの各機能設定を初期状態にするときは 応用

### 1 [設定解除] を選ぶ

- [ƳƮ2] タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して [**設定解除**] を選び、〈SET〉を押します。

### 2 [カメラ設定初期化] を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して [**カメラ設定初期化**] を選び、〈SET〉を押します。

### 3 [OK] を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して [**OK**] を選び、〈SET〉を押すと初期状態になります。

➡ カメラの状態は次の表のようになります。

**撮影機能関係**

| | |
|---|---|
| AFモード | ONE SHOT |
| AFフレームの選択 | 自動選択 |
| 測光モード | (評価測光) |
| ドライブモード | □ (1枚撮影) |
| 露出補正 | 0 (ゼロ) |
| AEB | 解除 |
| ストロボ調光補正 | 0 (ゼロ) |
| カスタム機能 | 設定状態のまま |

**記録画像関係**

| | |
|---|---|
| 記録画質 | ◢L |
| ISO感度 | 100 |
| 色空間 | sRGB |
| ホワイトバランス | AWB (オートWB) |
| WB補正 | 解除 |
| WB ブラケティング | 解除 |
| 現像パラメーター | パラメーター 1 |

簡単撮影ゾーンではカメラの設定を初期状態にすることはできません。

# MENU 表示言語を設定する

液晶モニターに表示する言語を15言語の中から選ぶことができます。

## 1 ［言語］を選ぶ

- ［ƳƳ2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**言語**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 言語設定画面になります。

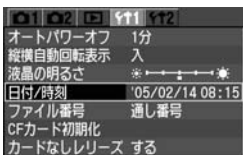
## 2 言語を設定する

- 〈✣〉十字キーを押して希望する言語を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示言語が切り換わります。

| | |
|---|---|
| English | 英語 |
| Deutsch | ドイツ語 |
| Français | フランス語 |
| Nederlands | オランダ語 |
| Dansk | デンマーク語 |
| Suomi | フィンランド語 |
| Italiano | イタリア語 |
| Norsk | ノルウェー語 |
| Svenska | スウェーデン語 |
| Español | スペイン語 |
| 简体中文 | 簡体中国語 |
| Русский | ロシア語 |
| 繁体中文 | 繁体中国語 |
| 한국어 | 韓国語 |
| 日本語 | 日本語 |

# MENU 日付／時刻を設定する

日付や時刻を設定・修正するときは、次の手順で設定します。

## 1 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［1］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 日付/時刻設定画面になります。

## 2 日付と時刻を設定する

- 〈▲▼〉を押して数字を合わせ、〈SET〉で設定します。
- 設定すると、次の項目に移動します。

## 3 日付の表示順序を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］の中から、希望する順序を選びます。

## 4 〈SET〉を押す

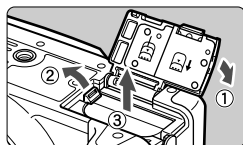
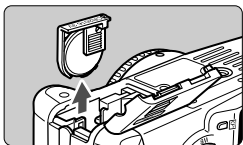
➡ 日付/時刻が設定され、メニューに戻ります。

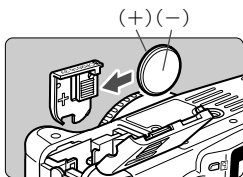
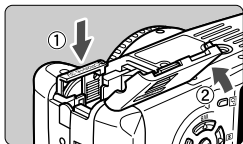
撮影した画像には日付/時刻が一緒に記録されます。日付/時刻が設定されていないと、撮影した日付/時刻が正しく記録されませんので、正しく設定してください。

# 日付／時計機能用電池を交換する

日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。バッテリーを交換したときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、次の手順で新しいCR2016リチウム電池に交換してください。
**日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください。**

## 1 電源スイッチを〈OFF〉にする

## 2 ふたを開けてバッテリーを取り出す

## 3 電池ホルダーを取り外す

## 4 電池を入れ換える

● ＋−を正しく合わせて入れます。

## 5 ホルダーを入れてふたを閉める

日付/時計機能用電池は、必ずCR2016リチウム電池を使用してください。

# MENU 撮像素子（CMOS）を清掃する 応用

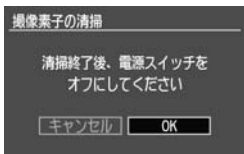
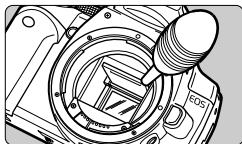
撮像素子とは、フィルムカメラでいえばフィルムにあたる部分です。撮像素子の表面にゴミやほこりなどが付くと、撮影した画像の同じ部分に黒い点などが写り込むことがあります。このようなときは、次の手順で撮像素子の表面についたゴミなどを清掃してください。ただし、撮像素子は非常にデリケートな部品ですので、清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理サービスご相談窓口にお申し付けください。
清掃を行うときは、ACアダプターキット ACK-DC20（別売／p.160）による家庭用電源の使用をおすすめします。バッテリーを使用するときは、必ず残量が十分にあるバッテリーを使用してください。また、清掃を始める前にレンズを取り外してください。

---

## 1 DCカプラー（p.24）かバッテリーを入れて、電源スイッチを〈ON〉にする

## 2 ［撮像素子の清掃］を選ぶ

- ［**Ÿ2**］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**撮像素子の清掃**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ バッテリー使用時は、十分な残量があるときに手順3の画面になります。
- バッテリー残量が不足しているときは、警告画面が表示され、次の操作には進めません。バッテリーを充電するか、DCカプラーを使用して、もう一度手順1からやり直してください。

## 3 ［OK］を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がり、シャッターが開きます。
- ➡ 表示パネルに「**CLEA n**」が点滅します。

## 4 撮像素子を清掃する

- ブロアー（市販品）で慎重に撮像素子表面に付着したほこりを吹き飛ばします。

## 5 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- ➡ カメラの電源が切れ、シャッターが閉じて、ミラーが下がります。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、通常の撮影準備状態になります。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷するおそれがあります。**
  - **・電源スイッチを〈OFF〉にする**
  - **・CFカードスロットカバーを開ける**
  - **・バッテリー室ふたを開ける**
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。バッテリー切れや停電などにより電源が切れると、シャッターが閉じて、シャッター幕や撮像素子が損傷する原因となります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 高圧のエアーやガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- バッテリー残量が少なくなると、電子音が鳴り、表示パネルの〈▭〉が点滅します。電源スイッチを〈OFF〉にして、残量が十分にあるバッテリーに交換し、初めからやり直してください。
- カメラにバッテリーグリップBG-E3（別売）を装着して、電源に単3形電池使用しているときは、撮像素子の清掃はできません。ACアダプターキットACK-DC20（別売）を使用するか、残量が十分にあるバッテリーを使用してください。

## MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

電源が自動的に切れるまでの時間を設定することができます。電源が自動的に切れないようにするときは、[切] に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

### 1 [オートパワーオフ] を選ぶ

- [ƳƳ1] タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して [**オートパワーオフ**] を選び、〈SET〉を押します。

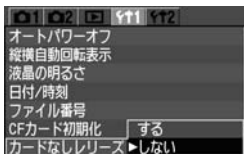
### 2 時間を設定する

- 〈▲▼〉を押して希望する時間を選び、〈SET〉を押します。

## MENU CFカードの入れ忘れを防止する

CFカードが入っていないときに、撮影できないようにすることができます。すべての撮影モードで設定できます。

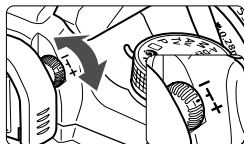
### 1 [カードなしレリーズ] を選ぶ

- [ƳƳ1] タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して [**カードなしレリーズ**] を選び、〈SET〉を押します。

### 2 [しない] を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して [**しない**] を選び、〈SET〉を押します。

[**しない**] に設定して、CFカードを入れずにシャッターボタンを押すと、ファインダー内に「**no CF**」が表示されます。

# 鮮明なファインダーに調整する

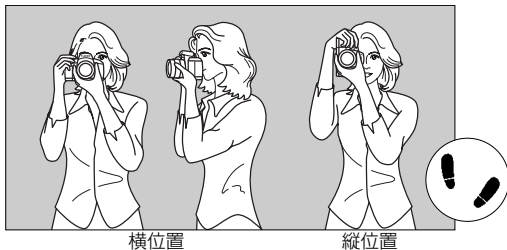
ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することで、メガネを使用している方でも、メガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は－3～＋1dptの範囲で行うことができます。

### 視度調整つまみを回す

- ファインダー内の AFフレームがもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準（－1dpt）の位置です。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

# カメラの構え方

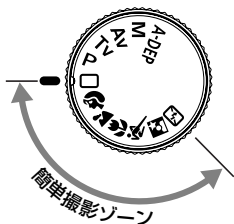
鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。

横位置　　縦位置

- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体に付けます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

2

# カメラまかせの自動撮影

この章ではモードダイヤルの簡単撮影ゾーンを使って簡単に撮影する方法を説明しています。〈□〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉それぞれに適した撮影ができるように、AFモードや測光モード、ISO感度などが自動設定されます。

このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できます。また、誤操作による失敗を防ぐため、〈ISO〉〈WB〉〈 〉〈AF〉〈 〉〈 〉〈Av 〉などの撮影に関する操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。

**モードダイヤルを〈□〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉のいずれかにする**

- 撮影の手順は『□　全自動で撮る』(p.44)と同じです。
- 簡単撮影ゾーンで自動設定される機能の内容は、『撮影機能の組み合わせ一覧』(p.152)を参照してください。

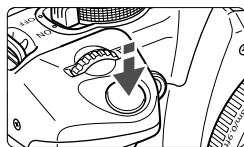
# □ 全自動で撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。7つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな画像を撮影できます。

## 1 モードダイヤルを〈□〉にする

➡ AFモードは〈**AI FOCUS**〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈◉〉に自動設定されます。

## 2 被写体にAFフレームを合わせる

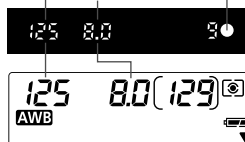
● 7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントを合わせます。

## 3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレーム内の〈・〉が一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、合焦マーク〈●〉が点灯します。

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。（⏱4）

➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

➡ 暗い場所など、AFでピント合わせができないときは、AF補助光が自動的に投光されます。（p.74）

## 4 表示を確認する

## 5 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

● CF カードに記録されている画像を再生するときは、〈▶〉ボタンを押します。(p.107)

● 〈**AF**〉でピント合わせをするときは、レンズ先端のフォーカスリングに手を触れないようにしてください。
● レンズのズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズームリングを動かすと、ピントがズレることがあります。
● CF カードの残量がなくなると、表示パネルとファインダー内に CF フル警告「**FuLL CF**」が表示され、撮影できなくなります。残量のあるCFカードに入れ換えてください。
● 誤って内蔵ストロボの自動ポップアップを阻害したときは、表示パネルに「**Err 05**」が点滅して警告します。そのときは、電源スイッチを〈OFF〉にして、再度〈ON〉にしてください。
● 他社製のレンズを使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。

● AFでピントが合うと同時に、ピントと露出がロックされます。
● 合焦マーク〈●〉が点滅するときは、撮影できません。(p.76)
● AF フレーム内の〈・〉が複数同時に赤く光ることがあります。そのときは、赤く光ったすべての位置にピントが合っています。
● 簡単撮影ゾーン(〈風景〉〈スポーツ〉〈ストロボ発光禁止〉を除く)では、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは手で押し下げます。
● ピントが合ったときの電子音を、メニュー[**1 電子音**]で鳴らないようにすることができます。(p.50)
● 撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を、メニュー[**▶ 撮影画像の確認時間**]で変更することができます。(p.104)
● 任意の AF フレームでピント合わせをしたいときは、モードダイヤルを〈**P**〉にしたあと、『AFフレームの選択』(p.73)を参照し、任意のAF フレームを選択します。

# イメージにあわせて撮る

撮影目的に応じたモードを選ぶだけで、効果的な写真を簡単に撮影できます。

## ポートレート

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると、連続撮影になります。
- 望遠レンズを使用して、人物の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すと、より効果的です。

➡ AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈連続〉、測光モードは〈評価〉に自動設定されます。

## 風景

広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。

- 広角レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現できます。

➡ AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈評価〉に自動設定されます。

## クローズアップ

草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。

- できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影できます。
- 本格的なクローズアップ撮影には、別売のEOS専用マクロレンズとマクロストロボの使用をおすすめします。

➡ AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈評価〉に自動設定されます。

## スポーツ

動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- 初めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。そのあと、7つのAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。
- シャッターボタンを押し続けると被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。
- 望遠レンズの使用をおすすめします。
- ピントが合うと合焦音が小さく鳴ります。

➡ AFモードは〈**AI SERVO**〉、ドライブモードは〈連続撮影〉、測光モードは〈評価測光〉に自動設定されます。

## 夜景ポートレート

夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影できます。

- 人物が入らない夜景のみを撮影するときは〈風景〉で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。

➡ AFモードは〈**ONE SHOT**〉、ドライブモードは〈1枚撮影〉、測光モードは〈評価測光〉に自動設定されます。

## ストロボ発光禁止

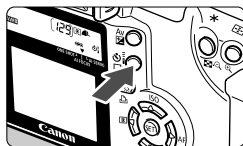
美術館など、ストロボ撮影が禁止されている場所や、自然光を生かした雰囲気のある写真を撮影するときに使用します。

- 内蔵ストロボ、EOS用外部ストロボ使用時ともに発光しません。

➡ AFモードは〈**AI FOCUS**〉、ドライブモードは〈1枚撮影〉、測光モードは〈評価測光〉に自動設定されます。

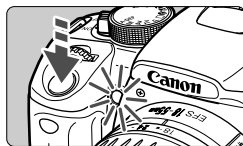
〈夜景ポートレート〉では、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。また、〈風景〉〈ストロボ発光禁止〉でシャッター速度の表示が点滅したときは、手ブレに注意してください。

# ⏱ セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使用できます。

### 1 〈⏱〉を選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈□ ⏱〉ボタンを押して、〈⏱〉を選びます。

### 2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、合焦マーク〈●〉の点灯と露出表示を確認します。

### 3 撮影する

- ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。
- ➡ 電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅を始め、約10秒後に撮影されます。

始めの8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音
／セルフタイマーランプ遅い点滅
最後の2秒間：早くピピピピ音
／セルフタイマーランプ点灯

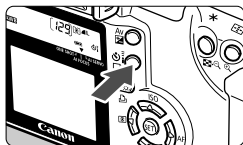
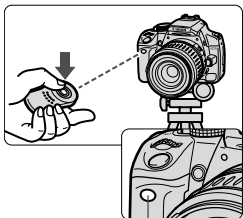
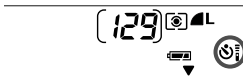
- ➡ セルフタイマー作動中は、表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。

レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

- セルフタイマー撮影するときは、三脚を使用してください。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈□ ⏱〉ボタンを押します。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロック（p.75）して撮影します。
- 電子音が鳴らないようにすることができます。（p.50）

# ワイヤレスリモコン撮影

リモートコントローラー RC-1／RC-5（別売）を使用すると、カメラの正面から約5m離れて撮影できます。

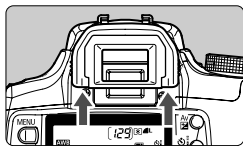
## 1 〈 〉を選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈 〉ボタンを押して、〈 〉を選びます。

## 2 撮影する

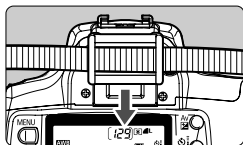
リモコン受信部

- 送信部をカメラのリモコン受信部に向けて送信ボタンを押します。
- ➡ AFによるピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の種類によってカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

# アイピースカバーの使い方

セルフタイマーやリモコンを使うときなど、ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すと、ファインダーからカメラに入った光によって露出が変わることがあります。そのようなときは、ストラップのベルト部分に付いているアイピースカバーを使います。

## 1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押して取り外します。

## 2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

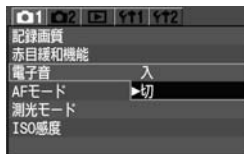
# MENU 電子音が鳴らないようにする

すべての撮影モードで電子音が鳴らないようにすることができます。

## 1 ［電子音］を選ぶ

- ［**1**］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**電子音**］を選び、〈SET〉を押します。

## 2 ［切］を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［**切**］を選び、〈SET〉を押します。

# 画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ホワイトバランス、色空間、現像パラメーターといった、撮影に関わるデジタルカメラ特有の機能設定について説明します。

- 簡単撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質（RAW、RAW+◢Lを除く）の設定、ファイル番号設定方式の選択、カメラの設定内容の確認のみが行えます。
- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。

# MENU 記録画質を設定する

◢L／▟L／◢M／▟M／◢S／▟Sは、汎用性の高いJPEG（ジェイペグ）画像を記録します。RAWは撮影後、付属のソフトウェアで現像処理を行う必要があります。RAW+◢L（RAW+JPEG）は、1回の撮影でRAW画像とJPEGラージファインの画像をCFカードに同時記録します。なお、**簡単撮影ゾーンでは、RAW、RAW+◢Lは選択できません。**

## 1 [記録画質] を選ぶ

- [1] タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 記録画質設定画面になります。

## 2 記録画質を設定する

- 〈✣〉十字キーを押して希望する記録画質を選び、〈SET〉を押します。
- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに設定した記録画質が表示されます。

### 記録画質を選ぶときの目安

| 記録画質 | 画像タイプ（拡張子） | 記録画素数 | プリントサイズ |
|---|---|---|---|
| ◢L（ラージファイン） | JPEG（.JPG） | 3456×2304（約800万） | A3以上 |
| ▟L（ラージノーマル） | | | |
| ◢M（ミドルファイン） | | 2496×1664（約415万） | A5～A4 |
| ▟M（ミドルノーマル） | | | |
| ◢S（スモールファイン） | | 1728×1152（約200万） | A5以下 |
| ▟S（スモールノーマル） | | | |
| RAW（ロウ） | RAW（.CR2） | 3456×2304（約800万） | A3以上 |

- ◢（ファイン）、▟（ノーマル）は、画像の圧縮率のことです。画質優先のときは低圧縮率の◢を、撮影枚数優先のときは高圧縮率の▟を選びます。
- RAW＋◢Lの同時記録では、RAWとJPEGの画像を同じフォルダに同じファイル番号で保存します。

### 記録画質に対する1枚のサイズと撮影可能枚数の目安

| 記録画質 | 1枚のサイズ（約MB） | 撮影可能枚数 |
|---|---|---|
| ◢L | 3.3 | 145 |
| ▟L | 1.7 | 279 |
| ◢M | 2.0 | 245 |
| ▟M | 1.0 | 466 |
| ◢S | 1.2 | 419 |
| ▟S | 0.6 | 790 |
| RAW+◢L | ― | 41 |
| RAW | 8.3 | 58 |

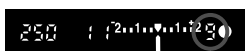
- 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数（p.54）はキヤノン純正512MB CFカード使用時の枚数です。
- 1 枚のサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準（ISO100、現像パラメーター：［**パラメーター 1**］設定時）によります。
  なお、1枚のサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体、撮影モード、ISO感度、現像パラメーターなどにより異なります。
- モノクロ撮影時（p.65）は、1枚のサイズが小さくなり、撮影可能枚数が多くなります。
- 撮影可能枚数は、表示パネルで確認することができます。
- 記録画質は、簡単撮影ゾーン、応用撮影ゾーンで別々に設定することができます。

## RAWについて

RAW（ロウ）はパソコンでの現像処理を前提としているため、専門的な知識が必要ですが、付属ソフトウェアの現像機能によって、使用目的に最適な画像を創ることができます。
現像処理とは、RAWの画像データに対して、ホワイトバランスやコントラストなどの画像調整を行って、使用目的に最適な画像を創り出すことをいいます。
なお、RAW画像は、ダイレクトプリントやプリント指定（DPOF）を行うことはできません。

## 連続撮影可能枚数について

記録画質により、連続して撮影できる枚数（連続撮影可能枚数）が異なります。各記録画質での連続撮影可能枚数の目安は次のとおりです。
なお、高速書き込みタイプのCFカード使用時は、撮影条件により、表記枚数以上の連続撮影ができることがあります。

| 記録画質 | ◢L | ▟L | ◢M | ▟M | ◢S | ▟S | RAW | RAW+◢L |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 連続撮影可能枚数 | 14 | 36 | 27 | 110 | 80 | 780 | 5 | 4 |

連続撮影可能枚数

● そのときの撮影条件で、あと何枚連続撮影できるかを、ファインダー内右下で確認することができます。

● 「**9**」と表示されているときは、9 枚以上または9 枚の連続撮影ができます。（「**5**」と表示されているときは5枚）
● 撮影を行って、枚数が9枚より少なくなると、数字が「**8**」「**7**」...と小さくなります。撮影を中断すると、数字が大きくなっていきます。

撮影したすべての画像の現像処理が終了すると（CF カードに書き込まれると）、上の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

● WBブラケティング撮影時（p.60）は、連続撮影可能枚数が2枚になります。
● 連続撮影可能枚数は、ドライブモードが〈□〉（1枚撮影）、〈ॐ〉でも表示されます。なお、CF カードを入れていないときにも枚数が表示されますので、CFカードが入っていることを確認してから撮影してください。

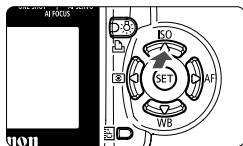
# ISO ISO感度を設定する 応用

ISO感度とは、撮影時の光に対する敏感度を数値化したものです。数値が大きくなるほど感度が高く、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影に向いていますが、撮影画像にノイズが入るなど、画像が粗くなることがあります。逆に感度が低い場合は、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影には向いていませんが、きめ細かな画像が撮影できます。
このカメラでは、ISO感度を100～1600まで、1段ステップで設定することができます。

## 簡単撮影ゾーンでのISO感度

撮影状況に応じて、ISO100～400の間で、ISO感度が自動設定されます。

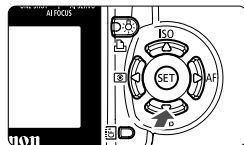
## 応用撮影ゾーンでのISO感度

ISO感度を［100］［200］［400］［800］［1600］の中から選択することができます。

**1** 〈▲ ISO〉ボタンを押す
➡ メニュー［ISO感度］が表示されます。

**2** ISO感度を設定する
● 〈▲▼〉を押して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。

● ISO感度を高くしたり、高温下で使用すると、画像に含まれるノイズ成分がやや多くなります。
● 高温・高ISO感度・長時間露光の条件で撮影を行うと、撮影画像に色ムラが発生することがあります。

# WBホワイトバランスを設定する 応用

通常は〈AWB〉で最適なホワイトバランスが自動設定されます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、手動設定で調整します。簡単撮影ゾーンでは〈AWB〉に自動設定されます。

ホワイトバランス　オート

## 1 〈▼ WB〉ボタンを押す

➡ メニュー［ホワイトバランス］が表示されます。

## 2 ホワイトバランスを選ぶ

● 〈✥〉十字キーを押して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。

● シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに設定したホワイトバランスが表示されます。

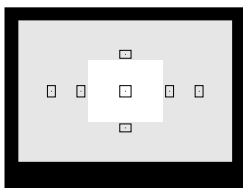
| 表示 | モード | 色温度（約・K） |
|---|---|---|
| AWB | オート | 3000〜7000 |
| ☀ | 太陽光 | 5200 |
| ⌂ | 日陰 | 7000 |
| ☁ | くもり、薄暮、夕やけ空 | 6000 |
| ✳ | 白熱電球 | 3200 |
| ≡ | 白色蛍光灯 | 4000 |
| ϟ | ストロボ使用 | 6000 |
| ⊿ | マニュアル* | 2000〜10000 |

* 手動で撮影環境に最適な設定をするときに設定します。(p.57)

### ホワイトバランスについて

光源中に含まれるRGB3原色（赤・緑・青）の構成比は、色温度によって変化します。色温度が高い場合は、青の要素が強くなり、色温度が低い場合は、赤の要素が強くなります。人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、被写体に含まれる色の基準となる白を決め、白を基準に色を補正して自然な色あいで撮影できます。このカメラの〈AWB〉は、撮像素子を使用して行います。

# MENU マニュアルホワイトバランス 応用

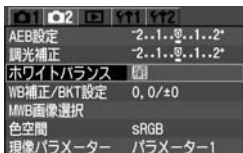
マニュアルホワイトバランス（MWB）は、ホワイトバランスの基準となる白い被写体を撮影し、その画像を選ぶことでホワイトバランスデータを取り込み、ホワイトバランスを設定します。

## 1 白い被写体を撮影する

- ファインダーの中央に、白い無地の被写体がくるようにします。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、手動でピントを合わせます。（p.76）
- どのホワイトバランス設定（p.56）でも構いません。
- 白い被写体が標準露出になるように撮影します。

## 2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**MWB画像選択**］(MWB：マニュアルホワイトバランス）を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ マニュアルホワイトバランス設定画面になります。

## 3 画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ホワイトバランスデータが取り込まれ、メニューに戻ります。
- ➡ オレンジ色の注意画面が表示されます。

## 4 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ホワイトバランス設定画面になります。

## 5 マニュアルWBを選ぶ

- 〈✥〉十字キーを押して〈マニュアルWB〉を選び、〈SET〉を押します。
- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに〈マニュアルWB〉が表示されます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、アンダーまたはオーバーのときは、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- 現像パラメーターを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.65）は、手順3で選択できません。

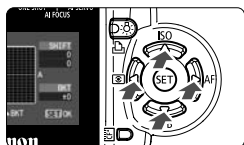
白い被写体の代わりに 18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。

# MENU ホワイトバランスを補正する 応用

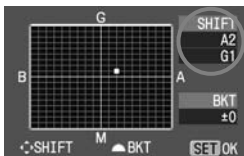
設定しているホワイトバランスモードの色温度を補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解されている方におすすめします。

## 1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- ［**2**］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**WB補正/BKT設定**］を選び、〈SET〉を押します。

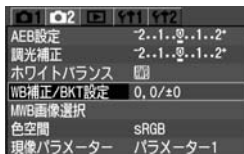
➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。

## 2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✥〉十字キーを押して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- ホワイトバランス補正を解除するときは、〈✥〉十字キーを操作して、「■」の位置を座標の中心（「**SHIFT**」を「**0, 0**」の表示）にします。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

設定例：A2, G1

- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します。（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表わすときに使用される単位）
- WBブラケティングやAEBと組み合わせて撮影することもできます。
- 手順2で〈〉を回すと、WBブラケティングの設定になります。（p.60）

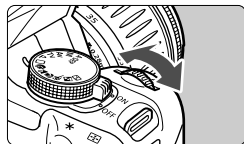
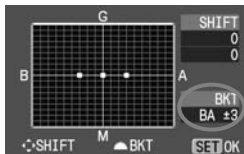
# MENU ホワイトバランスを自動的に変えて撮る 応用

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定しているホワイトバランスモードの色温度を基準に、B（ブルー）とA（アンバー）寄りの色あい、またはM（マゼンタ）とG（グリーン）寄りの色あいに補正した画像を記録します。これをホワイトバランスブラケティング撮影といいます。補正幅は1段ステップ±3段です。

## 1 記録画質をRAW、RAW+◢L以外にする（p.52）

## 2 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- ［◘2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［WB補正/BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。

➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。

## 3 ブラケティングを設定する

- 〈◎〉を回して、ブラケティング方向とブラケティングレベルを設定します。
- 〈◎〉を回すと、画面上の「▪」が「▪ ▪ ▪」（3点）に変わります。〈◎〉を右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- 設定できるブラケティングレベルは、B/A方向、M/G方向ともに1段ステップ、±3段です。（B/A方向とM/G方向を同時に設定することはできません。）

➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、ブラケティングレベルが表示されます。

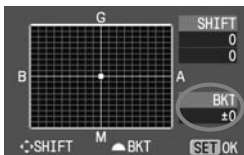
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

B/A方向±3段のとき

M/G方向±3段のとき

## 4 撮影する

➡ B/A 方向のブラケティングが設定されているときは、基準WB、B（ブルー）寄り、A（アンバー）寄りの順に、M/G方向のブラケティングが設定されているときは、基準WB、M（マゼンダ）寄り、G（グリーン）寄りの順に3枚の画像がCFカードに記録されます。

## ホワイトバランスブラケティングの解除

● 手順3の操作で、「**BKT**」を「**±0**」（「■ ■ ■」を「■」（1点））にします。

● 記録画質が、RAW、RAW+◢L に設定されているときは、WBブラケティング撮影できません。
● WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が2枚になります。

● WBブラケティングを設定すると、表示パネルの撮影可能枚数が約1/3になります。
● 1 回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもCF カードへの画像記録時間が長くなります。
● ホワイトバランス補正やAEBと組み合わせて撮影することもできます。AEBとの組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
● 「**BKT**」は、Bracketingの略です。

# MENU 色空間を設定する 応用

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選択することができます。なお、一般的な撮影には、sRGBをおすすめします。簡単撮影ゾーンではsRGBに自動設定されます。

## 1 ［色空間］を選ぶ

- ［2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**色空間**］を選び、〈SET〉を押します。

## 2 色空間を設定する

- 〈▲▼〉を押して［**sRGB**］または［**Adobe RGB**］を選び、〈SET〉を押します。

## Adobe RGBについて

おもに商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

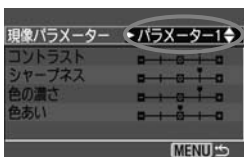
- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（PDF）を参照してください。

# MENU 現像パラメーターを選択する 応用

撮影画像を、色鮮やかでくっきりした感じにしたり、逆に控えめにしたりすることができます。現像パラメーターには、あらかじめ現像処理の内容が設定されているパラメーター 1、2と、自分で設定した内容で撮影できるセット1、2、3、白黒画像を撮影するときのモノクロがあります。簡単撮影ゾーンではパラメーター 1に自動設定されます。

## 1 ［現像パラメーター］を選ぶ

- ［2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**現像パラメーター**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 現像パラメーター設定画面になります。

## 2 〈SET〉を押す

## 3 パラメーターを選ぶ

- 〈▲▼〉を押して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

**現像パラメーターについて**

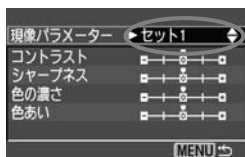
| 項目 | 内容 |
| --- | --- |
| パラメーター1 | 色鮮やかでくっきりした感じに仕上がります。簡単撮影ゾーンでは、すべてこの感じで撮影されます。 |
| パラメーター2 | パラメーター 1よりも、やや控えめで自然な感じに仕上がります。 |
| セット1～3 | ［**コントラスト**］［**シャープネス**］［**色の濃さ**］［**色あい**］を任意に設定・登録することができます。（p.64） |
| モノクロ | 白黒画像を撮影することができます。 |

- ［**パラメーター 1**］は、［**コントラスト**］［**シャープネス**］［**色の濃さ**］がそれぞれ +1 段に、［**パラメーター2**］は、すべての項目が「**0**」に設定されたものです。
- 応用撮影ゾーンでは、初期状態で［**パラメーター1**］に設定されています。

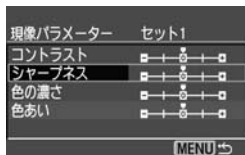
# MENU 現像パラメーターを設定する 応用

撮影した画像の現像処理の内容（パラメーター：［**コントラスト**］［**シャープネス**］［**色の濃さ**］［**色あい**］／各5段階）をカメラで任意に設定して、3件まで登録・設定することができます。

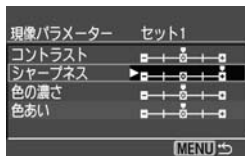
## 1 ［現像パラメーター］を選ぶ

- ［**2**］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**現像パラメーター**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 現像パラメーター設定画面になります。

## 2 〈SET〉を押す

## 3 セット番号を選ぶ

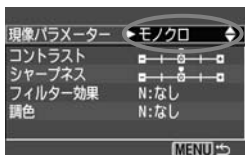
- 〈▲▼〉を押して［**セット1**］～［**セット3**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。
- ［**セット 1**］～［**セット 3**］の初期状態は、すべてのパラメーターが「**0**」（標準）に設定されています。

## 4 項目を選ぶ

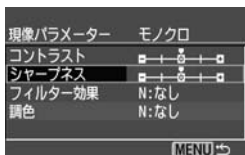
- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

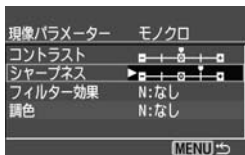
| 項目 | マイナス | プラス |
|---|---|---|
| コントラスト | 明暗差・弱 | 明暗差・強 |
| シャープネス | 輪郭強調・弱 | 輪郭強調・強 |
| 色の濃さ | 薄め | 濃いめ |
| 色あい | 肌色が赤め | 肌色が黄色め |

## 5 内容を設定する

- 〈◀▶〉を押して希望する効果を設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

## 白黒画像を撮影するとき

現像パラメーターをモノクロに設定して撮影すると、カメラが現像処理を行って、白黒画像をCFカードに記録します。

### 1 ［モノクロ］を選ぶ

- 64ページの手順3で［**モノクロ**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 項目を選ぶ

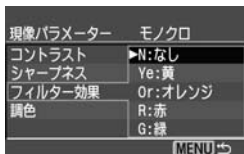
- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。
- ［**コントラスト**］［**シャープネス**］は、64ページ手順4の表の内容と同じです。
- ［**フィルター効果**］［**調色**］については、66ページを参照してください。

### 3 内容を設定する

- 〈✥〉十字キーを押して希望する効果を設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。
- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

- 自然な感じの白黒画像にするためには、適切なホワイトバランスで撮影してください。
- ［**モノクロ**］に設定して撮影したJPEGの白黒画像を、パソコンのソフトウェアなどを用いて、カラー画像にすることはできません。

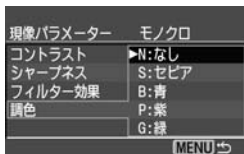
記録画質RAWで［**モノクロ**］に設定して撮影したときは、付属のソフトウェアでカラー画像を生成することもできます。

## フィルター効果

白黒フィルムで写真撮影を行うときのフィルターワークをデジタル画像で再現したものです。使用するフィルター色と同じ（近接した）色を明るくし、補色を暗くした白黒画像を撮影することができます。

| フィルター | 効果例 |
|---|---|
| N：なし | フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。 |
| Ye：黄 | 青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。 |
| Or：オレンジ | 青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。 |
| R：赤 | 青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。 |
| G：緑 | 人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。 |

［コントラスト］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

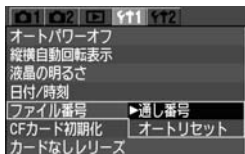
## 調色

調色を設定して撮影すると、白黒画像に選んだ色を付けてCFカードに記録します。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［N：なし］［S：セピア］［B：青］［P：紫］［G：緑］から選ぶことができます。

# MENU ファイル番号の設定方式

ファイル番号は、フィルムカメラのフィルムのコマ番号に相当するもので、［**通し番号**］と［**オートリセット**］の2種類があります。撮影した画像は、自動的に0001～9999までのファイル番号が付けられて、ひとつのフォルダに最大100画像ずつ保存されます（フォルダは自動的に作られます）。

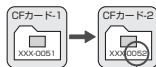
**1　［ファイル番号］を選ぶ**

- ［**ƒƒ1**］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**ファイル番号**］を選び、〈SET〉を押します。

**2　番号の設定方式を選ぶ**

- 〈▲▼〉を押して［**通し番号**］または［**オートリセット**］を選び、〈SET〉を押します。

## 通し番号

続きのファイル番号

CFカードを交換しても、最後に撮影した画像の続き番号が次の画像に付けられます。撮影した画像のファイル番号が重複しないため、画像をパソコンでまとめて管理するようなときに有効です。ただし、すでに画像が記録されているCFカードに入れ換えたときは、その中に入っている画像の最大ファイル番号と、最後に撮影した画像のファイル番号を比較して、数の大きい方を続きのファイル番号とします。

## オートリセット

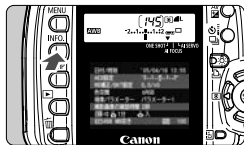
ファイル番号リセット

CFカードを交換すると、ファイル番号が初期値（**100-0001**）に戻ります。撮影した画像のファイル番号が、**0001**から始まりますので、CFカード単位で分類したいときなどに有効です。ただし、すでに画像が記録されているCFカードに入れ換えたときは、その中に入っている画像の最大ファイル番号に続いたファイル番号となります。

フォルダ番号999が作成されると、液晶モニターに［**フォルダ番号がいっぱいです**］と表示されます。さらにファイル番号が9999になると、表示パネルとファインダー内に「**Err CF**」（CFエラー警告）表示されます。新しいCFカードに交換してください。

ファイル名は、JPEG画像、RAW画像ともに「IMG_ 」になります。拡張子は、JPEG画像が「 .JPG」、RAW画像が「 .CR2」になります。

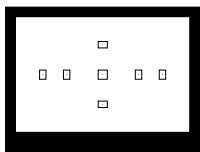
# INFO. カメラの設定内容を確認する

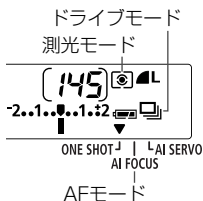
撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている内容が液晶モニターに表示されます。

## 設定内容を表示する

- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターにカメラの設定内容が表示されます。
- もう一度〈INFO.〉ボタンを押すと、表示が消えます。

画像再生時の画像情報については、『撮影情報表示について』（p.108）を参照してください。

# 4

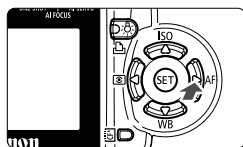
# AF/ 測光 / ドライブの設定

ファインダー内には、7つのAFフレームが配置されています。適切なAF フレームを任意に選択することにより、構図優先のAF 撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図にあわせてオートフォーカスの作動特性を選択できます。

ドライブモード
測光モード
ONE SHOT
AI SERVO
AI FOCUS
AFモード

測光モードには、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光があります。ドライブモードには、1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー／リモコンがあります。撮影状況や撮影意図にあわせて選択してください。

- ページタイトル右の応用マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。
- 簡単撮影ゾーンでは、AF モード、AF フレーム、測光モード、ドライブモードが自動設定されます。

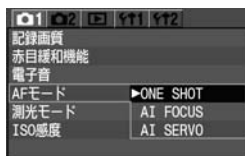
# AF AFモードの選択応用

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。止まっている被写体の撮影に適している「ワンショットAF」、動いている被写体の撮影に適している「AIサーボAF」、被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換える「AIフォーカスAF」の3種類があります。簡単撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAFモードが自動設定されます。

**1 レンズのフォーカス モードスイッチを〈AF〉にする**（p.25）

**2 〈▶ AF〉ボタンを押す**

➡ メニュー［AFモード］が表示されます。

**3 AFモードを選ぶ**

- 〈▲▼〉を押して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。
  - **ONE SHOT**：ワンショットAF
  - **AI FOCUS**：AIフォーカスAF
  - **AI SERVO**：AIサーボAF
- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに設定したAFモードが〈▼〉で表示されます。

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉でも AF モードの設定はできますが、AFは作動しません。
- エクステンダー（別売）を併用したときに、開放絞り数値がF5.6を超えるレンズでは、AF撮影できません。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせ、〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

## 止まっている被写体を撮るときはワンショットAF

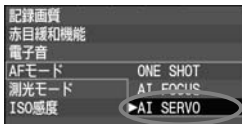
AFフレーム　合焦マーク

### シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせます

➡ 被写体にピントが合うと、ピントを合わせたAF フレーム内の〈･〉が一瞬赤く光ります。同時にファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。

➡ 評価測光ではピントが合うと、同時に露出値が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと、露出値が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影（p.75）ができます。

ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ)』(p. 76）を参照してください。

## 動いている被写体を撮るときはAIサーボAF

### シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます

● 撮影距離がたえず変わる（移動している）被写体の撮影に適しています。

➡ 動体予測機能*でカメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。

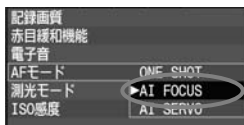
➡ 露出は撮影の瞬間に決まります。

撮影モードが応用撮影ゾーン（〈A-DEP〉を除く）のときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

## *動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる、または遠ざかっていくときに、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

- AFフレーム自動選択のときは、初めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。
- AFフレームを任意選択しているときは、選択したAFフレームで動体予測を行います。

## AFモードを自動的に切り換えるAIフォーカスAF

AI フォーカスAF は、被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AI サーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

ワンショットAF で被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカス AFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

# ⊞ AFフレームの選択応用

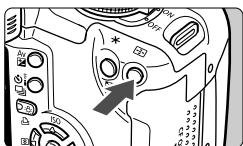
AFフレームとはピントを合わせる枠のことです。AFフレームの選択方式には、「自動選択」と「任意選択」があります。
簡単撮影ゾーンと〈A-DEP〉では自動選択に設定されます。〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉の撮影モードでは、自動選択と任意選択を切り換えることができます。

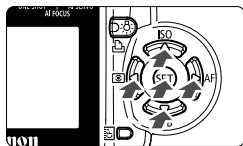
## 自動選択

撮影状況に応じてカメラが自動的にAF フレームを選択してピントを合わせます。ファインダー内の**すべてのAFフレーム〈・〉を赤く点灯させます**。

## 任意選択

7つのAFフレームから、**任意の1点を手動で選択します**。狙った被写体に確実にピントを合わせたいときや、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたいときに便利な機能です。

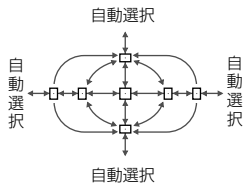
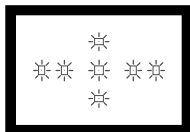
## 〈✥〉十字キーによる選択

**1 〈⊞〉ボタンを押す**（ⓞ6）

➡ 現在選択されているAFフレームが、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

**2 AFフレームを選択する**

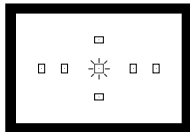
● ファインダー内または表示パネルを見ながら、〈✥〉十字キーを押します。

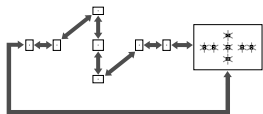
➡ 〈◀▶〉を押すと横方向に、〈▲▼〉を押すと縦方向にAF フレームが移動します。

● 〈SET〉を押すと、中央AFフレームの選択と自動選択を切り換えることができます。

● シャッターボタンの半押し、またはもう一度〈⊞〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

●自動選択

**すべてのAFフレーム〈・〉を赤く表示させる**

- 一番端のAF フレームから1 つ進めると自動選択になります。

●任意選択

**希望する1点のAFフレーム〈・〉を赤く表示させる**

## 電子ダイヤルによる選択

- 〈〉ボタンを押したあと、〈〉を回します。
- 電子ダイヤルを回すと、左図のように循環します。

- 表示パネルを見ながらAFフレームを選択するときは、次の図を参考にしてください。

  自動選択[--:--]、中央[ - ]、右[ -]、上[ ¯ ]
- EOS 用外部ストロボ使用時に AF 補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

## 内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈〉〈〉〈〉では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、〈〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

# ピントを固定し構図を変えて撮影する

AFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。フォーカスロック撮影は、AFモードがワンショットAFに設定されているときに有効です。

**1** **モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする**

**2** **任意のAFフレームを選択する**
（p.73）

**3** **ピントを合わせる**

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

**4** **シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える**

**5** **撮影する**

AFモードがAIサーボAF（AIフォーカスAFのサーボ状態を含む）のときは、フォーカスロック撮影はできません。

簡単撮影ゾーンでもフォーカスロック撮影ができます（〈〉を除く）。そのときは手順3から行います。

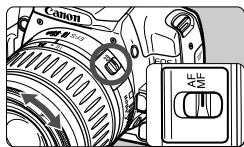
# AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

## ピントが合いにくい被写体

(a) コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体
　例：青空、単色の平面など
(b) 非常に暗い場所にある被写体
(c) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
　例：反射光の強い車のボディ
(d) 被写体が遠いところと近いところに共存する状態
　例：おりの中の動物
(e) 繰り返し模様の被写体
　例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。
(1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。(p.75)
(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う。

## 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

フォーカスリング

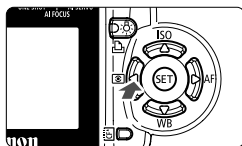
**1 レンズのフォーカス モードスイッチを〈MF〉にする**

**2 ピントを合わせる**

● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレーム〈･〉と合焦マーク〈●〉が点灯します。

# 測光モードの選択 応用

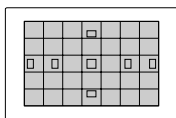
測光モードには、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つがあります。簡単撮影ゾーンでは評価測光に自動設定されます。

**1 〈◀ 〉ボタンを押す**

➡ メニュー［**測光モード**］が表示されます。

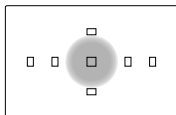
**2 測光モードを選ぶ**

- 〈▲▼〉を押して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。

  **：評価測光**
  **：部分測光**
  **：中央部重点平均測光**

- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに設定した測光モードが表示されます。

### 評価測光

このカメラの標準測光方式で、逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。

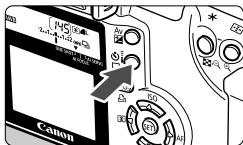
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）時は、常に中央AFフレーム基準の評価測光になります。
- 主被写体が極端な逆光下にあったり、強いスポットライトを浴びているような、主被写体と背景に極端な明暗差があるときは、部分測光〈 〉をおすすめします。

### 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約9%の範囲を測光します。測光範囲はほぼ左図の範囲となります。

### 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

# ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。簡単撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なドライブモードが自動設定されます。

**〈 〉ボタンを押す**（6）

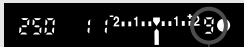
- 表示パネルを見ながら〈 〉を押して、ドライブモードを選びます。

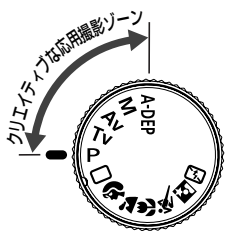
  ：**1枚撮影**
  シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

  ：**連続撮影**（最高約3コマ／秒）
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

  ：**セルフタイマー／リモコン撮影**
  （p.48／49）

連続撮影可能枚数

- 撮影した画像は、一度カメラの内部メモリーに保存してから、順次CFカードに記録するため、連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、表示パネルとファインダー内に「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。CFカードへの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタンを半押しして、ファインダー内右下に表示される連続撮影可能枚数で、そのとき撮影できる枚数を確認してください。
- ファインダー内と表示パネルに「**FuLL CF**」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、CFカードを交換してください。
- バッテリーの残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下します。

5

# 撮影目的にあわせた応用撮影

応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

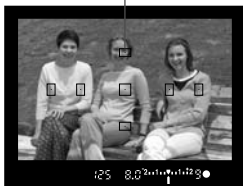
- ページタイトル右の応用マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約４秒間（4）表示されます。
- 応用撮影ゾーンで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』（p.152）を参照してください。

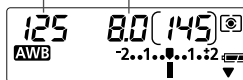
# P プログラムAE撮影

〈□〉（全自動）と同じように気軽に撮影できます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

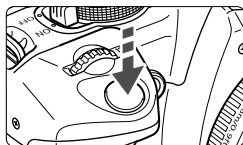
＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ **AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

## 1 モードダイヤルを〈P〉にする

## 2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいて AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

## 3 表示を確認する

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

● シャッター速度と絞り数値の表示が点滅していなければ、適正露出です。

## 4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**4000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

## 〈P〉と〈□〉（全自動）の違い

- 自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせはともに同じです。
- 〈**P**〉では次の機能の選択・設定または使用が可能ですが、〈□〉ではできません。

**撮影機能関係**

- AFモード選択
- AFフレーム任意選択
- ドライブモード選択
- 測光モード選択
- プログラムシフト
- 露出補正
- AEB
- 〈✱〉ボタンによるAEロック
- 被写界深度確認
- カメラ設定初期化
- カスタム機能（C.Fn）
- カスタム機能一括解除
- 撮像素子の清掃

**ストロボ関係（内蔵ストロボ）**

- 常時発光/発光禁止
- FEロック
- ストロボ調光補正

**ストロボ関係（EXスピードライト）**

- マニュアル/マルチ発光
- ハイスピードシンクロ（FP発光）
- FEロック
- 光量比制御
- ストロボ調光補正
- FEB
- 後幕シンクロ
- モデリング発光

**記録画像関係**

- RAW、RAW＋◢L選択
- ISO感度設定
- ホワイトバランス選択
- マニュアルWB画像選択
- ホワイトバランス補正
- WBブラケティング設定
- 色空間選択
- 現像パラメーター設定

## プログラムシフトについて

- プログラムAEは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈⛭〉を回します。
- プログラムシフトは撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

# Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現できます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

速いシャッター速度

遅いシャッター速度

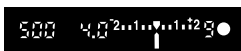
---

## 1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

## 2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回します。
- 1/3段ステップで設定できます。

## 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。

## 4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値の表示が点滅していなければ適正露出です。

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値表示の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。
- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値表示の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

**シャッター速度の表示**

「**4000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば、「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"6**」は0.6秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

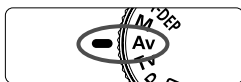
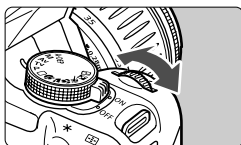
4000　3200　2500　2000　1600　1250　1000　800　640　500
400　320　250　200　160　125　100　80　60　50　40　30
25　20　15　13　10　8　6　5　4　0"3　0"4　0"5　0"6　0"8
1"　1"3　1"6　2"　2"5　3"2　4"　5"　6"　8"　10"　13"
15"　20"　25"　30"

# Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほどピントが合っている範囲が前後に狭くなります。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほどピントが合っている範囲が前後に広くなります。

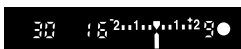
＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。

小さい絞り数値

大きい絞り数値

## 1 モードダイヤルを〈Av〉にする

## 2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。
- 1/3段ステップで設定できます。

## 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。

## 4 表示を確認して撮影する

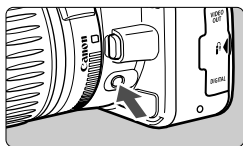
- シャッター速度の表示が点滅していなければ適正露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッター速度表示の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さく（絞りを開いて）するか、ISO感度を上げます。
- シャッター速度の「**4000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッター速度表示の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きく（絞りを閉じて）するか、ISO感度を下げます。

**絞り数値の表示**

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される数値は使用するレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは「**00**」を表示します。

1.0　1.1　1.2　1.4　1.6　1.8　2.0　2.2　2.5　2.8　3.2　3.5　4.0
4.5　5.0　5.6　6.3　7.1　8.0　9.0　10　11　13　14　16　18
20　22　25　29　32　36　40　45　51　57　64　72　81
91

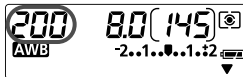
# ピントの合っている範囲を確認する 応用

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値で絞り込みが行われ、被写界深度（ピントの合っている範囲）をファインダーで確認できます。

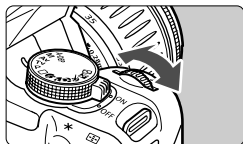
- 絞り数値が大きいほどファインダーが暗くなります。
- 〈**A-DEP**〉では、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、半押ししたまま絞り込みボタンを押してください。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

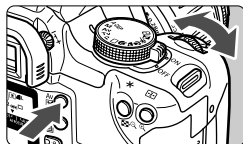
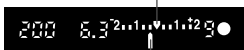
# M 自分で露出を決めて撮る

カメラまかせではなく、自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。露出はファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual （マニュアル）の略です。

## 1 モードダイヤルを〈M〉にする

## 2 シャッター速度を設定する

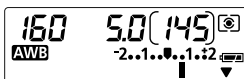
● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

## 3 絞り数値を設定する

● 〈Av〉ボタンを押しながら〈〉を回します。

標準露出指標

露出レベルマーク

## 4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。

- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

## 5 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

：露出を決めるときの基準です。

：標準露出にするには、シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。

：標準露出にするには、シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

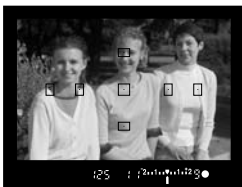
## 6 撮影する

露出レベルマーク〈▮〉が〈+2〉または〈-2〉の位置で点滅しているときは、露出が±2段を超えていることを示しています。

# A-DEP 近くから遠くまでピントが合った画像を撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な画像を撮ることができます。7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。

＊〈A-DEP〉は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略で自動被写界深度のことです。

## 1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする

## 2 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。（⏱4）
- 一瞬赤く光ったAF フレームのすべてにピントが合います。
- シャッターボタンを半押ししたまま絞り込みボタンを押すと、ピントの合う範囲を確認することができます。（p.85）

## 3 撮影する

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっていると、〈A-DEP〉撮影できません。〈P〉と同じ撮影結果になります。
- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。
- シャッター速度の「**4000**」が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

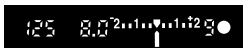
- 絞り数値の表示が点滅するときは、露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- シャッター速度や絞り数値を自由に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることがありますので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときは、〈P〉のストロボ撮影と同じ結果になります。

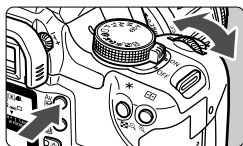
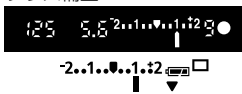
# 自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することができます。補正できる範囲は、1/3段ステップで±2段です。

## 1 モードダイヤルを〈M〉以外の応用撮影ゾーンにする

## 2 露出表示を確認する

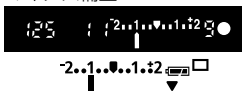
- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

## 3 補正量を設定する

- 〈Av〉ボタンを押しながら〈ダイヤル〉を回します。
- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈 〉の位置に戻します。

プラス補正

マイナス補正

標準露出指標

露出レベルマーク

マイナス補正 ◄……► プラス補正

## 4 撮影する

- 設定した補正量は電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値8.0が適正露出のとき、露出レベル表示で1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを以下のように変更することと同じです。

| | −1段 ← 0 → ＋1段 |
|---|---|
| シャッター速度なら | 250 ←125→ 60 |
| 絞り数値なら | 11 ← 8.0→ 5.6 |

# MENU 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。

標準露出

マイナス補正

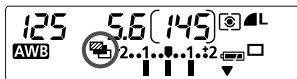
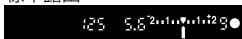
プラス補正

## 1 ［AEB設定］を選ぶ

- ［2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。

AEBレベル

## 2 AEBレベルを設定する

- 〈◀▶〉を押してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに〈〉とAEBレベルが表示されます。

## 3 撮影する

標準露出

マイナス補正

プラス補正

- ➡ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- ➡ 左図のように、撮影順に補正位置が表示されます。
- ➡ 設定しているドライブモード(p.78)に従って撮影されます。

## AEB撮影の解除

- 手順1、2の操作でAEBレベルを〈-2..1..0..1..2+〉にします。
- 電源スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換で自動解除されます。

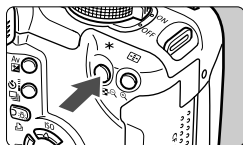
 ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

- ドライブモードが連続撮影（□）のときは、3枚撮影後に自動停止します。1枚撮影（□）のときは、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- セルフタイマー／リモコンを併用したときは、自動的に 3 枚連続撮影されます。
- カスタム機能 C.Fn-7［**ミラーアップ撮影**］を［**1：する**］に設定（p.150）してAEB撮影すると、ドライブモードを連続撮影にしても1枚撮影になります。
- AEBと露出補正を組み合わせて撮影することもできます。

# ✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などで有効です。

## 1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

## 2 〈✱〉ボタンを押す（ⓣ4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。

AEロック表示

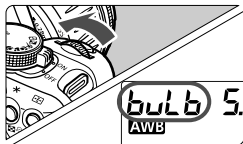
## 3 構図を決めて撮影する

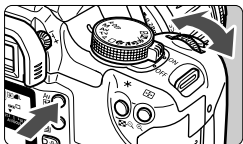
- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

- AFモードがワンショットAF、AIフォーカスAF（AIサーボAF時を除く）で、測光モードが〈◙〉（評価測光）のときは、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと同時にAEロックされます。
- AFフレームの選択と測光モードの組み合わせにより、AEロックの効果は変わります。詳しくは『AEロックの効果』（p.153）を参照してください。

# 長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

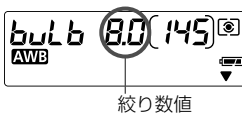
## 1 モードダイヤルを〈M〉にする

## 2 シャッター速度を「buLb」にする

- 表示パネルを見ながら〈〉を回して「**buLb**」を選びます。
- 「**30"**」の次が「**buLb**」です。

## 3 絞り数値を設定する

- 〈Av〉ボタンを押しながら〈〉を回します。

絞り数値

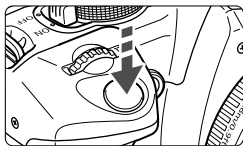
## 4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。（1～999秒まで表示）
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。

露光経過時間（秒）

長時間露光は撮影画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になります。

- 長時間露光の撮影では、撮影画像にノイズが含まれることがあります。カスタム機能C.Fn-2［**長秒時露光時のノイズ低減**］を［**1:する**］に設定すると（p.148）、ノイズを軽減することができます。
- バルブ撮影には、リモートスイッチRS-60E3（別売）の使用をおすすめします。
- リモートコントローラー RC-1／RC-5（別売）でもバルブ撮影ができます。送信ボタンを押すと2秒後に露光が行われ、もう一度押すと撮影が終了します。

# ミラーアップ撮影 応用

カスタム機能C.Fn-7［**ミラーアップ撮影**］を［**1：する**］に設定すると（p.150）、ミラーアップと露光を別々に行う、ミラーアップ撮影ができます。ミラーショックが気になる近接撮影や、望遠レンズを使用するときに効果的です。
カスタム機能の設定は、メニュー［**2 カスタム機能（C.Fn）**］で行います。

## 1 シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

## 2 再度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後すみやかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影をするときは、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー 2秒間＋バルブ撮影時間）。タイマー作動中の2秒のあいだに、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ミラーアップ撮影は、ドライブモードの設定（1枚撮影/連続撮影）にかかわらず1枚撮影になります。
- セルフタイマーを設定してミラーアップ撮影すると、シャッターボタン全押しでミラーが上がり、2秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しするとミラーアップします。
- ミラーアップ撮影には、リモートスイッチ RS-60E3（別売）の使用をおすすめします。
- リモートコントローラー RC-5（別売）でもミラーアップ撮影ができます。送信ボタンを押すとミラーが上がり、2秒後に撮影されます。

6

# ストロボを使った撮影

内蔵ストロボ、またはEOS 用EXシリーズスピードライトを使用すると、E-TTL II 自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、ストロボなしの通常の撮影と同じ感覚で、自然で雰囲気のあるストロボ撮影を簡単に行うことができます。

簡単撮影ゾーン（〈〉〈〉〈〉を除く）では全自動で、応用撮影ゾーンでは必要なときにいつでもストロボ撮影ができます。

# 内蔵ストロボを使った撮影

E-TTL II 自動調光制御により、高精度で安定したストロボ撮影ができます。

## 簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

暗いときや日中逆光時に、**内蔵ストロボが自動的に上がって発光**します。（〈風景〉〈スポーツ〉〈ストロボ発光禁止〉を除く）

## 応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

明るさに関係なく**必要なときに〈ストロボ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけ**でストロボ撮影ができます。

**P** ：**カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。**シャッター速度（1/60～1/200秒）と絞り数値は、〈□〉（全自動）と同様に自動的に決まります。

**Tv** ：**任意のシャッター速度（30秒～1/200秒）を設定したいときに選択します。**設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる**絞り数値が自動設定されます。**

**Av** ：**任意の絞り数値を設定したいときに選択します。**設定した絞り数値に対し、カメラの測光で最適な**シャッター速度が自動設定（30秒～1/200秒）されます。**

夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景は遅いシャッター速度による露光で適正露出になります。

- 自動スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くならないようにしたいときは、カスタム機能C.Fn-3［**Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1：1/200秒（固定）**］に設定します。（p.148）

**M** ：**シャッター速度（バルブ、30秒～1/200秒）と絞り数値を任意に設定したいときに選択します。**主被写体はストロボ光で適正露出になります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

**A-DEP**：〈**P**〉と同じストロボ撮影結果になります。

## 内蔵ストロボの届く距離

EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USM使用時 ［m］

| ISO感度 | 広角：18mm | 望遠：55mm |
|---|---|---|
| 100 | 約1〜3.7 | 約1〜2.3 |
| 200 | 約1〜5.3 | 約1〜3.3 |
| 400 | 約1〜7.4 | 約1〜4.6 |
| 800 | 約1〜10.5 | 約1〜6.6 |
| 1600 | 約1〜14.9 | 約1〜9.3 |

EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM使用時 ［m］

| ISO感度 | 広角：17mm | 望遠：85mm |
|---|---|---|
| 100 | 約1〜3.3 | 約1〜2.3 |
| 200 | 約1〜4.6 | 約1〜3.3 |
| 400 | 約1〜6.5 | 約1〜4.6 |
| 800 | 約1〜9.2 | 約1〜6.6 |
| 1600 | 約1〜13.0 | 約1〜9.3 |

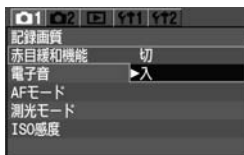
- 被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、レンズでストロボの光がさえぎられて、画面の一部が暗い写真になります。1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がさえぎられます。必ずフードを取り外してから撮影してください。
- 超望遠レンズ、大口径レンズを使用すると、内蔵ストロボの光がさえぎられることがあります。EXスピードライト（別売）の使用をおすすめします。
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は、レンズ表記焦点距離 17mm までです。17mm未満の広角レンズを使用すると、撮影した画像の周囲が暗くなります。

- 内蔵ストロボを収納するときは、指で押し下げます。
- 〈**Tv**〉〈**M**〉で1/200秒より速いシャッター速度を設定しても、自動的に1/200秒に設定されます。
- AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてAF補助光（内蔵ストロボが連続的に発光）が被写体に向けて自動投光されます（〈〉〈〉〈〉を除く）。（p.74）

## 赤目緩和機能を使う

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」といい、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。赤目緩和機能を使用すると、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプが点灯し、写る人の瞳孔を小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は〈 〉〈 〉〈 〉以外のすべての撮影モードで機能します。

### 1 ［赤目緩和機能］を選ぶ

- ［1］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**赤目緩和機能**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 赤目緩和機能を設定する

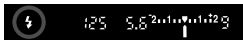
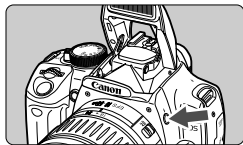
- 〈▲▼〉を押して［**入**］を選び、〈SET〉を押します。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に〈●〉が表示されます。

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。
- 写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。
- 室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。

125 5.6 9

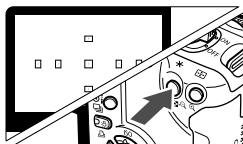
赤目緩和ランプ点灯表示

## ✱ FEロック撮影 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

### 1 〈⚡〉の点灯を確認する

- 〈⚡〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げておきます。
- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈⚡〉が点灯していることを確認します。

### 2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。手順4まで半押ししたままにしておきます。

### 3 〈✱〉ボタンを押す （⏱16）

- ファインダーの中央に被写体をおいて、〈✱〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。
- ➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈✱〉が点灯します。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。

### 4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ ストロボが発光し、撮影されます。

被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは〈⚡〉が点滅します。被写体に近づいて再度手順2～4の操作をします。

## ストロボ調光補正 応用

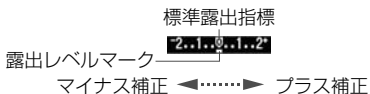
露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量をカメラで補正することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。

### 1 ［調光補正］を選ぶ

- ［2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**調光補正**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 補正量を設定する

- 〈◀▶〉を押して希望する補正量を設定し、〈SET〉を押します。

標準露出指標
露出レベルマーク -2..1..0..1..2+
マイナス補正 ◀‥‥‥▶ プラス補正

- ストロボ調光補正を解除するときは、補正量の設定を〈 〉の位置に戻します。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに〈 〉が表示されます。

### 3 撮影する

- 設定した補正量は電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- EXスピードライト使用時も同じ操作で、カメラ側からストロボ調光補正ができます。

# EOS用外部ストロボを使った撮影

## EXシリーズスピードライトでの撮影

EOS用 EXスピードライト（別売）を使用すると、ストロボなしの通常の撮影と同じ感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。操作方法については、EXスピードライトの使用説明書も参照してください。

### ●E-TTL II 自動調光

E-TTL II は、調光制御方式の改善とレンズ距離情報の活用により、従来の E-TTL（プリ発光・記憶式評価調光）以上の高精度ストロボ調光を実現した、新自動調光システムです。このカメラでは、どのEXスピードライトを使用しても、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます。

**・ハイスピードシンクロ（FP発光）**

ハイスピードシンクロを使用すると、1/200秒より速いシャッター速度でもストロボ撮影ができるようになります。

**・FE（Flash Exposure）ロック**

カメラの〈✱〉ボタンを押すと、被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。

**・ストロボ調光補正**

露出補正と同じ感覚で、ストロボ光の発光量の補正を行うことができます。補正できる範囲は、カメラ側設定で1/3段ステップ±2段、ストロボ側設定（調光補正対応ストロボのみ）で1/3段ステップ±3段です。

**・FEB（Flash Exposure Bracketing）撮影**

自動的にストロボの発光量を変えながら3枚の撮影を行うことができます（FEB対応ストロボのみ）。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

**・ワイヤレス多灯・E-TTL II 自動調光撮影**

カメラに直接取り付けたときと同じ感覚で、上記すべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL II自動調光撮影ができます。接続コードが不要なため、自由で高度なライティング設定が可能です（ワイヤレス対応ストロボのみ）。

## EZ/E/EG/ML/TLスピードライトについて

**EZ/E/EG/ML/TLスピードライトを、TTLまたはA-TTL自動調光モードに設定して撮影すると発光しません。**マニュアル発光機能を持つスピードライトは、マニュアル発光モードで撮影してください。

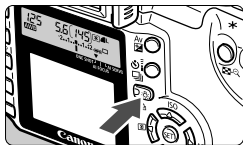
- 外部ストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- EXスピードライト側でカスタム機能を設定して、発光モードがTTL自動調光になっているときは発光しません。

- AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS 用外部ストロボ（AF補助光投光機能を持つ外部ストロボのみ）から、AF補助光が被写体に向けて自動投光されます（〈 〉〈 〉〈 〉を除く）。
- このカメラは、EX スピードライトの全機能が使用できる A タイプカメラに属しています。

# 汎用ストロボを使った撮影

小型の汎用ストロボは 1/200秒以下のシャッター速度で同調します。あらかじめストロボが正しく同調するかどうか確認してから使用してください。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

# ☼ 表示パネルの照明

表示パネルには照明機能が付いています。〈☼〉ボタンを押すたびに照明が点いたり（⏱6）消えたりします。暗い場所での撮影で、表示パネルが見えにくいときに使用してください。

- 表示パネルが照明されている間に、撮影に関わるボタン、モードダイヤルを操作すると、照明時間が延長されます。
- プリンターをカメラに接続し、〈☼〉ボタンのランプが青色に点灯しているときは、イージープリント（簡単印刷）ボタンとして機能します。（p.136）

# 7

# 撮影画像の再生

撮影した画像を見る方法や消去する方法、またテレビとの接続方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

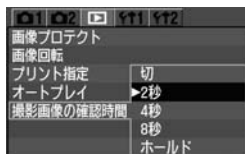
## 他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像データを加工したり、ファイル名を変更した画像は、正常に表示できないことがあります。

# MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後にカメラ背面の液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影した画像を撮影直後に表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

## 1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- ［▶］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。

## 2 確認時間を設定する

- 〈▲▼〉を押して希望する確認時間を選び、〈SET〉を押します。

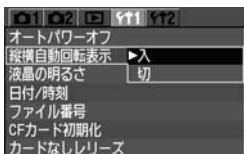
---

- 撮影直後の画像表示中に〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。
- ［**ホールド**］に設定した場合、撮影画像はシャッターボタンを半押しするまで表示されます。ただし、オートパワーオフ設定時は、設定時間になると自動的に電源が切れます。
- 1枚撮影後の画像表示中に〈🗑〉ボタンを押して、［**OK**］を選ぶと、表示中の画像を消去することができます。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『撮影画像を再生する』（p.107）を参照してください。

# MENU 縦横自動回転表示の設定

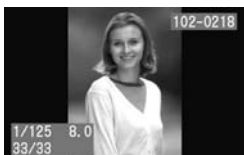
縦位置撮影した画像を再生するときに、画像の確認が行いやすいよう、画像を自動回転させて表示することができます。

## 1 [縦横自動回転表示] を選ぶ

- [ƒ1] タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して [**縦横自動回転表示**] を選び、〈(SET)〉を押します。

## 2 [入] を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して [**入**] を選び、〈(SET)〉を押します。

## 3 縦位置で撮影する

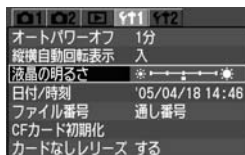
- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像は自動回転表示されません。

## 4 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 縦位置で撮影した画像が左図のように見やすい位置で表示されます。

- 再生時に自動回転表示が行われるのは、[**縦横自動回転表示**] を [**入**] に設定して撮影した画像のみです。[**切**] で撮影した画像は、設定を [**入**] にして再生しても自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく自動回転表示されないことがあります。

カメラの縦横の向き（姿勢）を変えると、カメラの姿勢を検出するセンサーの機構により、小さな音がすることがありますが、故障ではありません。

# MENU 液晶の明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを5段階に調整することができます。

## 1 ［液晶の明るさ］を選ぶ

- ［1］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**液晶の明るさ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 調整画面が表示されます。

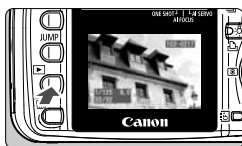
## 2 明るさを調整する

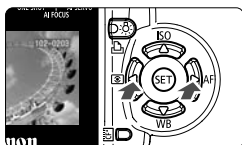
- 画面左のグレーチャートを参考にして、〈◀▶〉を押して調整します。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

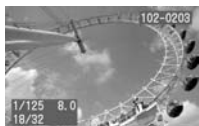
撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.108）で確認することをおすすめします。

# 撮影画像を再生する

撮影した画像を自由に選んで、1枚表示や撮影情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示などで見ることができます。

## 〈▶〉1枚表示

### 1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

### 2 画像を選ぶ

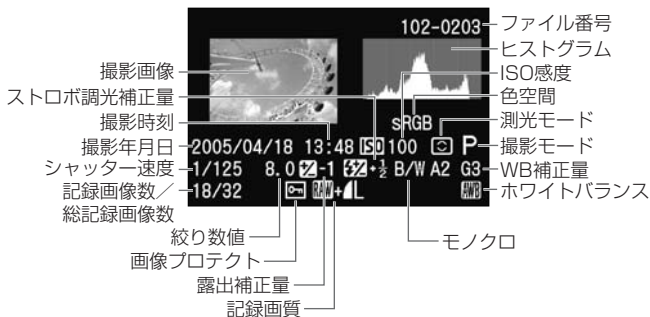
- 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。

1枚表示
（簡易情報あり）

撮影情報表示

1枚表示
（撮影情報なし）

- 〈▶〉ボタンを押すと、液晶モニターが消え、再生が終了します。

- インデックス表示、拡大ズーム表示など、1枚表示以外の再生方法でも〈INFO.〉ボタンを押すと、簡易情報あり／撮影情報なしを切り換えることができます。
- 連続撮影後のCFカード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に〈▶〉ボタンを押すと、その時点でCFカードへの書き込みが終了した最後の画像を表示します。〈◀▶〉を押すと、画像を選ぶことができます。CFカードへの書き込みが終了した画像から順次再生ができるようになります。

## 撮影情報表示について

### ヒストグラムについて

ヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。
ヒストグラムでは、画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。
横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。そのほかの成分は階調が再現されます。
再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

**ヒストグラム例**

暗い成分が多いとき

普通の明るさのとき

明るい成分が多いとき

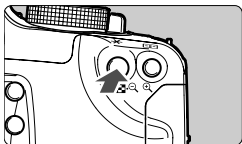
### ハイライト警告表示について

撮影情報表示にしたときに、露出オーバーで白飛びした部分を点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して再撮影すると良い結果が得られます。

## ⊞ インデックス表示

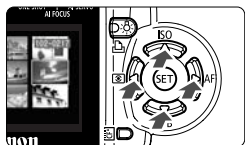
1画面に9枚の画像を同時に表示します。

### 1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

### 2 インデックス表示にする

- 〈⊞·Q〉ボタンを押します。
- ➡ 選択されている画像に緑色の枠がつきます。

### 3 画像を選ぶ

- 〈✣〉十字キーを押すと、緑色の枠が上下左右に移動します。

### インデックス表示から別の表示形式に変えるには

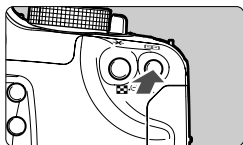
- 〈▶〉ボタンを押すと1枚表示になります。
- 〈⊕〉ボタンを1回押すと1枚表示に、もう一度押すと拡大ズーム表示になります。

インデックス表示中に〈JUMP〉ボタンを押して〈◀▶〉を押すと、前または次の9枚目の画像へジャンプすることができます。（p.111）

## ⊕／⊖ 拡大ズーム表示

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます

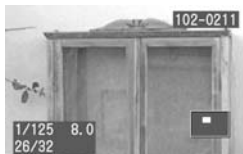
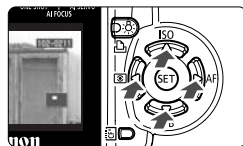
### 1 画像を再生する

- 拡大したい画像を1枚表示、または撮影情報表示で再生します。

### 2 画像を拡大する

- 〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ 初めに画面の中央が拡大表示されます。
- 〈⊕〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈⊞·⊖〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、手順1の状態まで連続的に小さくなります。

拡大表示位置

### 3 表示位置を移動する

- 〈✥〉十字キーを押すと、表示位置が上下左右に移動します。
- 手順2、3を繰り返して希望する位置を拡大します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

拡大ズーム表示中に〈⚙〉を回すと、拡大位置、拡大率を固定した状態で、表示画像を切り換えることができます。

## JUMP ジャンプ表示

1枚表示、撮影情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示のときに、画像を飛ばして表示（ジャンプ）することができます。

### 1 画像を再生する

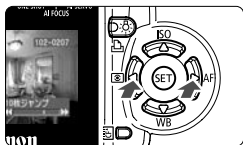
ジャンプ方法

ジャンプバー

### 2 ジャンプ表示にする

- 〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ 画面下にジャンプバーが表示されます。
- 1枚表示、撮影情報表示のときは、〈▲▼〉を押すとジャンプ方法（10枚／100枚／日付）を切り換えることができます。

### 3 前後の画像にジャンプする

- 〈◀▶〉を押します。
- 〈JUMP〉ボタンを押すとジャンプバーが消え、ジャンプが終了します。

**1枚表示、撮影情報表示のジャンプ**

「10枚ジャンプ／100枚ジャンプ」の場合

〈◀〉を押すと前の10枚／100枚目、〈▶〉を押すと次の10枚／100枚目の画像を表示します。

「日付ジャンプ」の場合

撮影日（同じ撮影日の画像が複数ある場合は、その日最初に撮影したコマ）単位でジャンプします。〈◀〉を押すと日付が新しい画像から順に古い画像へ、〈▶〉を押すと日付が古い画像から順に新しい画像へとジャンプします。

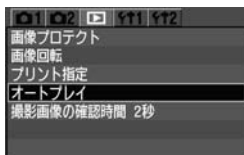
**拡大ズーム表示のジャンプ**

〈 〉を左に回すと前の10枚目、右に回すと次の10枚目の画像を表示します。拡大率、拡大位置が固定された状態でジャンプします。

**インデックス表示のジャンプ**

〈◀〉を押すと前の9枚目、〈▶〉を押すと次の9枚目の画像を表示します。

## MENU 撮影画像を自動再生する／オートプレイ

CFカードに記録されている画像を自動的に連続表示します。1画像の表示時間は約3秒です。

### 1 [オートプレイ] を選ぶ

- [▶] タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して [**オートプレイ**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ オートプレイ画面になります。

### 2 自動再生する

- ➡ [**画像読み込み中...**] が数秒間表示されたあと、自動再生が始まります。
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に [ II ] が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、自動再生を再開します。

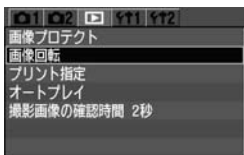
### 3 自動再生を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、自動再生が終了しメニューに戻ります。

- 自動再生中は、オートパワーオフは機能しません。
- 撮影画像により、表示時間が異なる場合があります。

- 自動再生中に〈INFO.〉ボタンを押すと、画像の表示形式を切り換えることができます。
- 一時停止中に〈◀▶〉を押すと、表示画像を切り換えることができます。

## MENU 撮影画像を回転して表示する

撮影画像を時計方向に90°、270°回転することができます。この機能で画像の向きをあらかじめ正しく設定しておくと、再生のときに正しい向きで表示することができます。

### 1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像回転画面になります。

⬇

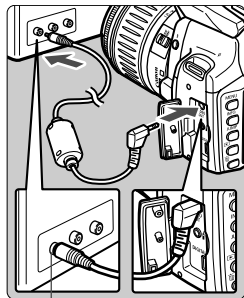
### 2 画像を回転する

- 〈◀▶〉を押して回転したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転します。
- ほかに回転したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- メニュー［**ΨΤ1 縦横自動回転表示**］を［**入**］（p.105）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 手順1のあとで画像の表示形式を撮影情報表示、拡大ズーム表示、インデックス表示にしたあとで、画像を回転することもできます。

# 撮影画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルを使用すると、撮影した画像をテレビなどで見ることができます。接続するときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

ビデオ入力端子

## 1 カメラをテレビに接続する

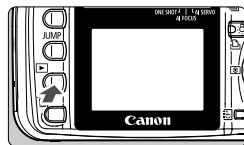
- カメラの端子カバーを開きます。
- カメラの〈VIDEO OUT〉ビデオ出力端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

## 2 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをビデオ入力にする

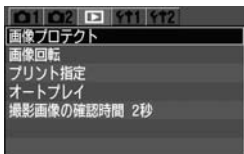
## 3 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

## 4 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 見終わったら、電源スイッチを〈OFF〉にして、テレビの電源を切ってから、ビデオケーブルを取り外します。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式を設定すると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー[**ꟾ2 ビデオ出力方式**]で方式を切り換えてください。
- カメラに付属しているビデオケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。
- 使用するテレビ（モニター）によっては、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

# MENU 撮影画像を保護する

大切な画像を誤って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

## 1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示

## 2 プロテクトをかける

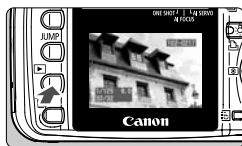
- 〈◀▶〉を押してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の下に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- ほかにプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了しメニューに戻ります。

- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.117）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去するときに便利です。
- 手順1のあとで画像の表示形式を撮影情報表示、拡大ズーム表示、インデックス表示にしたあとで、画像にプロテクトをかけることもできます。

# 🗑 撮影画像を消去する

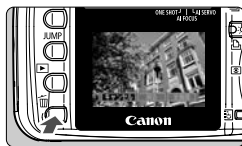
画像を消去する方法には、1枚ずつ消去する方法と、CFカードに記録されているすべての画像を消去する方法があります。なお、プロテクト（p.115）をかけた画像は消去されません。

**消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。**

## 1枚消去

### 1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

### 2 消去する画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して消去する画像を選びます。

### 3 消去画面にする

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

### 4 消去する

- 〈◀▶〉を押して［**消去**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ アクセスランプが点滅して画像が消去されます。
- ほかに消去したい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

## 全画像消去

### 1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

### 2 消去画面にする

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

### 3 ［全画像］を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して［**全画像**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

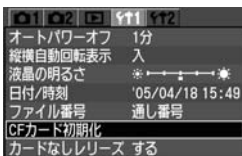
### 4 消去する

- 〈◀▶〉を押して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトをかけていないすべての画像が消去されます。
- 消去中に〈SET〉を押すと消去作業が途中で中止されます。

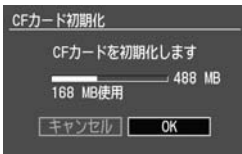
連続撮影後のCFカード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に〈▶〉ボタンを押したあと、〈🗑〉ボタンを押すと、表示中の画像または全画像を消去することができます。［**全画像**］を選び〈SET〉を押すと、連続撮影した画像（未現像処理画像を含む）とCFカードに記録されているすべての画像が消去されます。

# MENU CFカードを初期化する

このカメラで使用できるようにCFカードを初期化（フォーマット）します。

**CFカードを初期化すると、CFカードに記録されている内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンに保存してください。**

## 1 ［CFカード初期化］を選ぶ

- ［ff1］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［CF カード初期化］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

CFカード初期化
CFカードを初期化します
488 MB
168 MB使用
キャンセル　OK

## 2 初期化する

- 〈◀▶〉を押して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ CFカードが初期化されます。
- ➡ 初期化が完了するとメニューに戻ります。

- キヤノン製以外のCFカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。そのときは、このカメラで初期化してください。初期化することで、使用できる場合があります。
- 初期化の画面で表示されるCFカードの総容量は、CFカードに書かれている容量よりも少なくなることがあります。

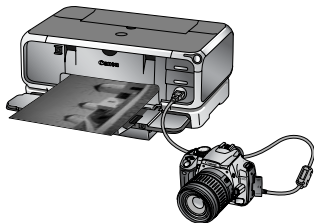
### 「Err CF」が表示されたときは

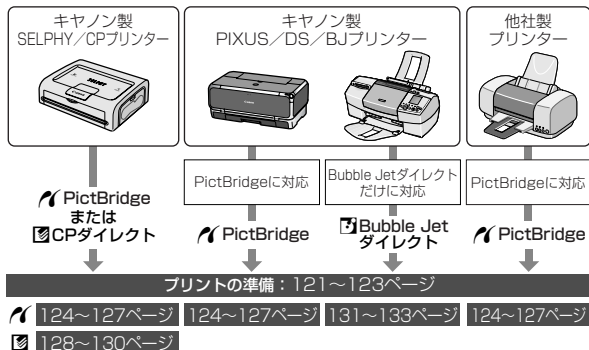
表示パネルに「**Err CF**」（CFエラー警告）が表示されたときは、CFカードに何らかの障害が発生して、記録／読み出しができない状態になっています。別のCFカードに交換してください。
カードリーダー（市販品）を使用して、パソコンでCF カードの内容が読み取れる場合は、CFカード内の撮影データをすべてパソコンに保存してください。すべての撮影データがパソコンに保存されたことを確認したら、CF カードを初期化してください。正常な状態に戻る場合があります。

# 8

# カメラダイレクトプリント

カメラとプリンターを直接つないで、CFカードに記録されている画像をプリントします。

このカメラでは、ダイレクトプリント標準規格の「〈 〉PictBridge」対応プリンターと、キヤノン独自規格の「〈 〉CPダイレクト」、「〈 〉Bubble Jetダイレクト」対応プリンターでダイレクトプリントを行うことができます。

## 本章の説明内容について

この章では、下の図で示すように、プリンターの種類別に説明内容を分けています。『プリントの準備をする』（次ページ）の操作を行うと、お使いのプリンターにあったダイレクトプリントの説明が何ページにあるか、より詳しくわかります。

## 弊社PictBridgeホームページについて

下記の弊社PictBridge ホームページをご覧になると、キヤノン製のカメラとプリンターを接続したときに、どのような用紙が使用できるかなどを確認することができます。

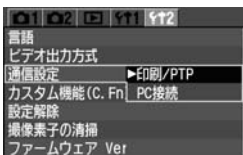
http://canon.jp/pictbridge/

# プリントの準備をする

**ダイレクトプリントの操作は、**カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います。**

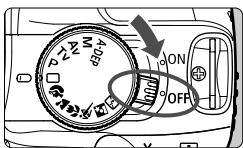
## カメラの設定

**1 ［通信設定］を選ぶ**

- ［ƳƳ2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**通信設定**］を選び、〈SET〉を押します。

**2 ［印刷/PTP］を選ぶ**

- 〈▲▼〉を押して［**印刷/PTP**］を選び、〈SET〉を押します。

カメラをパソコンに接続するときは、［**通信設定**］を［**PC接続**］にしてください。［**印刷/PTP**］の設定ではパソコンとの通信ができないことがあります。

## カメラとプリンターの接続

**1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする**

**2 プリンターの準備をする**

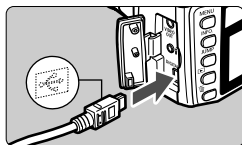
- 詳しくは使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

- RAW画像は、ダイレクトプリントできません。
- ダイレクトプリント中は、ケーブルを取り外さないでください。

## 3 カメラとプリンターを接続する

● 次の表（プリンターとケーブルについて）を参照して、使用するケーブルを選んでください。

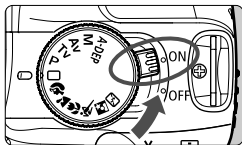
**プリンターとケーブルについて**

| 接続するプリンター | | 使用するケーブル |
|---|---|---|
| | PictBridgeだけに対応 | **カメラに付属の<br>インターフェースケーブル**<br>両方のプラグに〈⭠⭢〉マークが付いています |
| | PictBridgeと<br>**CPダイレクト**に対応 | |
| | PictBridgeと<br>**Bubble Jetダイレクト**に対応 | |
| | **CPダイレクト**だけに対応 | **プリンターに付属のケーブル**<br>片方のプラグだけに〈⭠⭢〉マークが付いています |
| | **Bubble Jetダイレクト**だけに対応 | |

● カメラ側を接続するときはプラグの〈⭠⭢〉マークが、カメラの前面に向くようにして、プラグをカメラの〈**DIGITAL**〉デジタル端子に差し込みます。

● プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

## 4 プリンターの電源を入れる

## 5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種によっては、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

PictBridge

CPダイレクト

Bubble Jetダイレクト

## 6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈 / / 〉が表示されます。
- ➡ イージープリントボタンのランプが青色に点灯します。
- 表示されるマークによって、操作方法が異なります。表示されるマークに応じたページを参照してください。

| マーク | 参照ページ |
|---|---|
| | 124〜127、136 |
| | 128〜130、136 |
| | 131〜133、136 |

- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。なお、プリントする際はバッテリーの残量に注意してください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、PictBridge対応プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、次の操作を行ってください。
  1.〈SET〉を押す
  2.プリント設定画面で［**プリント**］を選ぶ
  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。『エラーメッセージについて』（p.127）を参照して問題を解決してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、必ずプラグの側面を持って引いてください。
- カメラとプリンターの接続には、専用のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。

ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキット ACK-DC20（別売）の使用をおすすめします。

# PictBridgeでプリント

**使用するプリンターによって設定できる内容が異なります。**また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

## 1 プリントする画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈◀▶〉を押してプリントする画像を選びます。

## 2 〈SET〉を押す

➡ プリント設定画面になります。

**プリント設定画面**

- 日付を入れてプリントするかどうかを設定します
- プリント効果を設定します
- 何枚プリントするかを設定します
- プリントする範囲を設定します
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- プリントを開始します

設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

*** 使用するプリンターの機種によっては、日付やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

## 3 [ペーパー設定]を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して[**ペーパー設定**]を選び、〈SET〉を押します。

➡ ペーパー（用紙）設定画面になります。

## ペーパーサイズの設定

● 〈▲▼〉を押してプリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。

➡ ペーパータイプの設定画面になります。

## ペーパータイプの設定

● 〈▲▼〉を押してプリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。

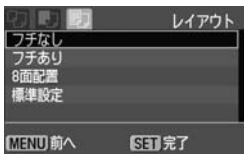
➡ レイアウトの設定画面になります。

**ペーパー（用紙）タイプについて**

キヤノン製PIXUS/DS/BJプリンターで、キヤノン純正用紙を使うときは、次のように設定してください。

| フォト | スーパーフォトペーパー |
|---|---|
| **高級フォト** | プロフェッショナルフォトペーパー |
| **標準設定** | スーパーフォトペーパー |

他社製プリンター使用時は、プリンターの使用説明書を参照してください。

## レイアウトの設定

● 〈▲▼〉を押して希望する印刷レイアウトを選び、〈SET〉を押します。

➡ プリント設定画面に戻ります。

### レイアウトについて

| | |
|---|---|
| **フチなし** | 余白なしで用紙いっぱいにプリントします。<br>「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」でプリントされます。 |
| **フチあり** | 用紙のまわりに余白をつけてプリントします。 |
| **＊＊面配置** | 用紙1枚に同じ画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面プリントします。 |
| **標準設定** | キヤノン製プリンターでは、「フチなし」でプリントされます。 |

## 4 その他の項目の内容を設定する

- 必要に応じて〈⊙〉日付プリント、〈⊡〉プリント効果、〈⊡〉プリント枚数を設定します。

⊙日付プリント

⊡プリント効果

⊡プリント枚数

- 〈▲▼〉を押して項目を選びます。
- 続けて〈◀▶〉を押して内容を選びます。
- プリンターの機種によっては、〈⊡〉プリント効果で、[VIVID]（緑や青空を鮮やかに印刷）、[NR]（ノイズリダクション）、[VIVID+NR]、または［入］が選択できます。
- トリミングについては、134 ページを参照してください。

## 5 プリントする

- 〈▲▼〉を押して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
- プリントを中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、［**OK**］を選んで〈SET〉を押します。

- プリントする画像のファイルサイズや記録画質によっては、［**プリント**］を選んでから実際にプリントが始まるまで、しばらく時間がかかります。
- プリント効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定するプリント内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。

### プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでもプリントが再開されないときは、プリンター側を操作してプリントを再開してください。プリントの再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

### エラーメッセージについて

プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押してプリントを中止し、問題を解決してから再度プリントしてください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

**ペーパーエラー**

プリンターのペーパー（用紙）が正しくセットされているかどうか確認してください。

**インクエラー**

プリンターのインク残量や、廃インクタンクの状態を確認してください。

**ハードウェアエラー**

ペーパー（用紙）、インク以外の問題がプリンターに発生していないか確認してください。

**ファイルエラー**

選択した画像はPictBridgeでプリントできません。
別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、プリントできないことがあります。

# CPダイレクトでプリント

プリンター接続表示

**1 プリントする画像を選ぶ**

● 液晶モニターの左上に〈 〉が表示されていることを確認します。
● 〈◀▶〉を押してプリントする画像を選びます。

**2 〈SET〉を押す**

➡ プリント設定画面になります。

**プリント設定画面**

設定されているプリントスタイルの情報が表示されます。
〈⊙〉は日付のマークです。

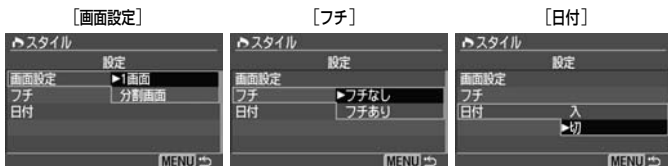
**3 ［スタイル］を選ぶ**

● 〈▲▼〉を押して［**スタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
➡ スタイル設定画面になります。

## 4 項目の内容を設定する

● ［**画面設定**］［**フチ**］［**日付**］の設定状態を確認し、必要に応じて設定します。

［**画面設定**］ ［**フチ**］ ［**日付**］

● 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

● 続けて〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押します。

● ［**画面設定**］は、カードサイズのペーパー（用紙）使用時に選択できるようになります。［**分割画面**］を選ぶと、用紙1枚に同じ画像を小さく8画面プリントします。

● ［**フチ**］［**日付**］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。

● 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押してプリント設定画面に戻ります。

## 5 プリント枚数を設定する

● 必要に応じて設定します。

● 〈▲▼〉を押して［**枚**］を選びます。

● 続けて〈◀▶〉を押してプリント枚数を設定します。

● 1～99枚まで設定できます。

## 6 トリミングの設定をする

- 必要に応じて設定します。
- トリミングについては、134 ページを参照してください。

## 7 プリントする

- 〈▲▼〉を押して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
- プリントを中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、［**OK**］を選んで〈SET〉を押します。

- 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、日付が薄く印刷されることがあります。
- ［**分割画面**］を選ぶと、［**フチ**］［**日付**］の設定はできません。［**フチなし**］、［**日付**］は［**切**］でプリントされます。また、画像の上下左右がカットされてプリントされます。

- ［**日付**］を［**入**］にすると、画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。日付は用紙の右下に印刷されます。
- プリント中に［**中止**］を選んだ場合、プリント枚数が1枚のときはプリントを中止できません。2枚以上のときは次のプリントから中止されます。
- プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。［**中止**］または（問題を解決したあとで）［**再開**］を選びます。［**再開**］が表示されないときは、［**中止**］を選びます。

# Bubble Jet ダイレクトでプリント

## 1 プリントする画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈◀▶〉を押してプリントする画像を選びます。

## 2 〈SET〉を押す

➡ プリント設定画面になります。

**プリント設定画面**

設定されているプリントスタイルの情報が表示されます。
〈⊙〉は日付のマークです。

## 3 ［スタイル］を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［**スタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル設定画面になります。

## 4 項目の内容を設定する

［ペーパー］　［フチ］　［日付］

- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押します。
- ［ペーパー］は、プリンターにセットされているペーパー（用紙）のサイズを選びます。
- ［フチ］［日付］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押してプリント設定画面に戻ります。

## 5 プリント枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈▲▼〉を押して［枚］を選びます。
- 続けて〈◀▶〉を押してプリント枚数を設定します。
- 1〜99枚まで設定できます。

## 6 トリミングの設定をする

- 必要に応じて設定します。
- トリミングについては、134 ページを参照してください。

## 7 プリントする

- 〈▲▼〉を押して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
- プリントを中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、［**OK**］を選んで〈SET〉を押します。

［**フチあり**］にすると、プリンターの機種によっては、日付がフチにかかることがあります。

- ［**日付**］を［**入**］にすると、画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。日付は用紙の右下に印刷されます。
- プリント中に［**中止**］を選ぶと、プリントが中止され、プリント中のペーパー（用紙）が排紙されます。
- プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。［**中止**］または［**続行**］を選びます。［**続行**］を選んでもプリントが再開されないときは、問題を解決すると自動的にプリントが再開されます。
- 操作パネルがある BJ プリンターを使用しているときは、エラー発生時にエラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。

# トリミング（プリント範囲）の設定

画面を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じでプリントすることができます。

**トリミングの設定は、プリントする直前に行ってください。**トリミングを行ったあとでプリント設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

## 1 ［トリミング］を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［トリミング］を選び、〈SET〉を押します。

➡ トリミング画面になります。

## 2 トリミングする

- トリミング枠の内側がプリントされる範囲です。
- 操作案内表示は、トリミング操作中は表示されません。操作をやめて約5秒経過すると再表示されます。

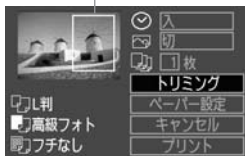
**枠の大きさを変える**

- 〈⊕〉、〈▪·⊖〉ボタンを押すと、トリミング枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してプリントされます。

**枠を移動する**

- 〈✥〉十字キーを操作すると、トリミング枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

**枠を回転する**

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびにトリミング枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したようにプリントすることもできます。

## 3 設定を終了する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ プリント設定画面に戻ります。
- ➡ 画面左上でプリント範囲を確認することができます。

- プリンターの機種によっては、トリミング枠のとおりにプリントされないことがあります。
- トリミング枠を小さくするほどプリントの画質が粗くなります。プリントの画質が粗くなるときに、トリミング枠が赤く表示されます。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングすると、トリミング枠が正しく表示されないことがあります。

トリミング枠の形状は、［**ペーパー設定**］、［**画面設定**］/［**ペーパー**］、［**レイアウト**］/［**フチ**］の設定で変わります。

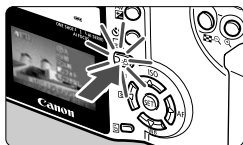
# かんたん印刷

お使いのプリンターでダイレクトプリントを行うと、その設定がカメラに記憶されます。同じ設定でプリントするときは、以下の手順で「かんたん印刷」を行うことができます。

**1** **カメラとプリンターをつないでプリントできる状態にする**

**2** **画像を再生してプリントする画像を選ぶ**

**3** **青いランプが点灯した〈⎙〉ボタンを押す**

➡ 青いランプが点滅して、プリントが開始されます。

- 「かんたん印刷」では、1回の操作で1枚ずつしかプリントできません。
- 「かんたん印刷」では、トリミングの設定は反映されません。

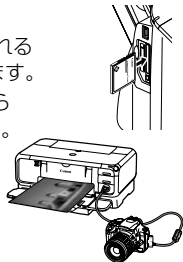
# 撮影画像のプリント指定／DPOF

CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数などを、あらかじめカメラで指定することができます。この機能をプリント指定機能（DPOF）といいます。DPOF対応のプリンターなどでプリントするときや、写真店にプリントを注文するときに便利な機能です。

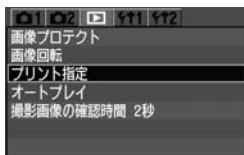
### DPOF（ディーポフ）について

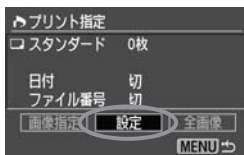
DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたい画像や枚数などのプリント指定情報を、CFカードに記録するための規格です。

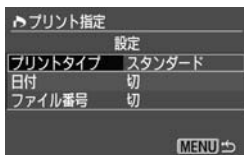
DPOF対応のデジタルカメラでプリント指定すると、次のようなことができます。

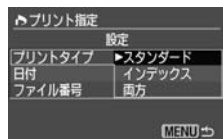
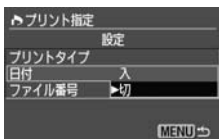
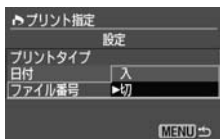
- DPOF対応のプリンターにCFカードを入れるだけで、指定したとおりにプリントできます。
- ダイレクトプリント対応のプリンターから直接、指定したとおりにプリントできます。
- 写真店にプリントを注文する際、注文用紙にプリントしたい画像の指定や枚数などの記入が不要になります。

# MENU 撮影画像をプリント指定する

## プリント内容の設定

プリントタイプや日付、ファイル番号の入／切といったプリント内容の設定を行います。この設定は、プリント指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

### 1 ［プリント指定］を選ぶ

- ［▶］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［プリント指定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント指定画面になります。

### 2 ［設定］を選ぶ

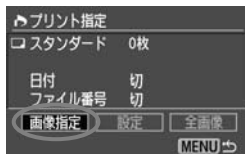
- 〈◀▶〉を押して［設定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント設定画面になります。

### 3 項目の内容を設定する

- ［プリントタイプ］［日付］［ファイル番号］の内容を設定します。
- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押します。

［プリントタイプ］　［日付］　［ファイル番号］

<table>
<tr><td rowspan="3">プリントタイプ</td><td></td><td>スタンダード</td><td>用紙1枚に1画像をプリントします。</td></tr>
<tr><td></td><td>インデックス</td><td>用紙1枚に縮小画像を複数プリントします。</td></tr>
<tr><td></td><td>両方</td><td>スタンダードとインデックスの両方をプリントします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日付</td><td colspan="2">入</td><td rowspan="2">［入］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">切</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ファイル番号</td><td colspan="2">入</td><td rowspan="2">［入］にすると、ファイル番号を付けてプリントします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">切</td></tr>
</table>

## 4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ プリント指定画面に戻ります。
- 次にプリント指定画面の［**画像指定**］［**全画像**］で、プリントする画像を指定します。

- RAW画像はプリント指定できません。
- ［**日付**］［**ファイル番号**］を［**入**］にしても、プリントタイプの設定や、プリンターの機種によっては、プリントされないことがあります。
- ［**インデックス**］では、［**日付**］と［**ファイル番号**］を同時に［**入**］にできません。
- プリントするときは、プリント指定を行った CF カードを使用してください。画像データだけをCFカードから抜き出してプリントすると、指定した内容でプリントできません。
- DPOF 対応プリンターの機種や、写真店の機器によっては、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- ほかのカメラでプリント指定した画像を、このカメラに入れて再度プリント指定しないでください。プリント指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類によっては、プリント指定できないことがあります。

## 1画像ずつ指定

### 1 ［画像指定］を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して［**画像指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像指定画面になります。

### 2 プリント指定する画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して画像を選びます。

### 3 プリントの指定をする

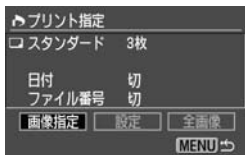
- ［**プリントタイプ**］（p.138）の設定状態によって、指定の内容が変わります。

**［スタンダード］［両方］の場合**

- 画像ごとにスタンダードタイプのプリント枚数を最大99枚まで設定できます。
- 〈▲▼〉を押してプリント枚数を選びます。

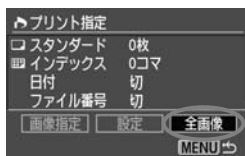
**［インデックス］の場合**

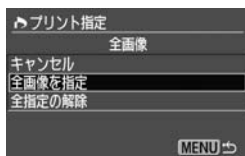
- 〈▲▼〉を押してインデックスプリントに加える（〈✓〉表示）／加えない（〈✓〉なし）を設定します。
- 〈▲▼〉を押すたびに〈✓〉がついたり消えたりします。

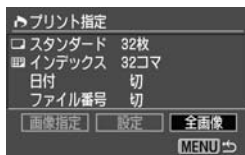
- ほかに指定したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 合計998画像まで指定できます。

## 4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ プリント指定画面に戻ります。
- もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がCFカードに保存され、メニューに戻ります。

## 全画像指定

CFカードに記録されている全画像のプリント指定と解除ができます。スタンダードタイプのプリント枚数は、すべて1画像1枚になります。
「1画像ずつ指定」の操作をしたあとで「全画像指定」の操作を行うと、全画像指定の設定に変わりますので、注意してください。

### 1 ［全画像］を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して［**全画像**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 全画像指定画面になります。

### 2 ［全画像を指定］を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［**全画像を指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ すべての画像が1枚ずつプリント指定され、プリント指定画面に戻ります。
- ［**全指定の解除**］を選ぶと、プリント指定を行った内容がすべて解除されます。
- ［**キャンセル**］を選ぶと、プリント指定画面に戻ります。

### 3 設定を終了する

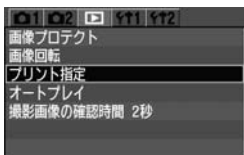
- プリント指定画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 指定した内容が CF カードに保存され、メニューに戻ります。

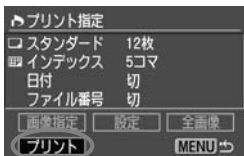
- 全画像指定をしても、RAW画像はプリント指定されません。
- PictBridgeでプリントするときは、一度にプリント指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像をプリントできないことがあります。

# MENU プリント指定画像のダイレクトプリント

DPOFでプリント指定した画像を、ダイレクトプリント対応のプリンターで簡単にプリントすることができます。

## 1 プリントの準備をする

- 121, 122ページを参照してください。『カメラの設定』と『カメラとプリンターの接続』の手順5まで行います。

## 2 ［プリント指定］を選ぶ

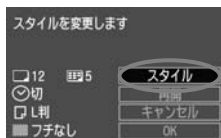
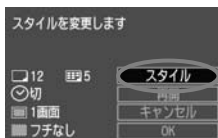
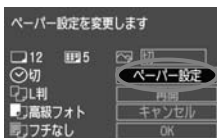
- ［▶］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**プリント指定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ プリント指定画面になります。

## 3 ［プリント］を選ぶ

- 〈✣〉十字キーを押して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**プリント**］は、カメラにプリンターが接続され、プリントできる状態になっていないと表示されません。

➡ プリント設定画面になります。

## 4 プリント内容を設定する

PictBridge　CPダイレクト　Bubble Jetダイレクト

### PictBridge

- ［**ペーパー設定**］と〈 〉プリント効果を設定します。（p.124）

**CPダイレクト／Bubble Jetダイレクト**

- ［**スタイル**］を設定します。（p.128／131）

## 5 プリントする

- 〈▲▼〉を押して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントを中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、［**OK**］を選んで〈SET〉を押します。

- PictBridge、Bubble Jetダイレクトでプリントするときは、必ずペーパー（用紙）サイズの設定を行ってください。
- PictBridgeでは、ファイル番号のプリントはできません。
- ［**フチあり**］にすると、プリンターの機種によっては、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、プリンターの機種によっては、日付が薄く印刷されることがあります。

- CPダイレクトで［**プリントタイプ**］が［**インデックス**］のとき、用紙1枚にプリントされる画像の数は以下のとおりです。
  - ・クレジットカードサイズ: 20画像　・Ｌサイズ：42画像
  - ・ポストカードサイズ: 63画像

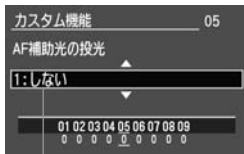
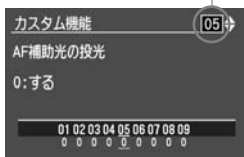
  Bubble Jet ダイレクトでプリントしたときの画像数については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。
- プリントを中止したあとに、残りの画像をプリントするときは、［**再開**］を選びます。ただし次のときは、プリントの再開はできません。
  - ・再開する前にプリント指定を変更した場合
  - ・再開する前にプリント指定した画像を削除した場合
  - ・CP　ダイレクトでインデックス設定時、再開する前にペーパー（用紙）カセットを変更した場合
  - ・PictBridgeでインデックス設定時、再開する前にペーパー（用紙）設定を変更した場合
  - ・プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合
- プリント中に問題が発生したときは、PictBridge：127ページ、CPダイレクト :130ページ、Bubble Jetダイレクト :133ページを参照してください。

# 10

# カメラを カスタマイズする

さまざまな撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

● カスタム機能は応用撮影ゾーンで設定、機能します。

# MENU カスタム機能の設定方法 応用

## 1 ［カスタム機能（C.Fn）］を選ぶ

- ［2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**カスタム機能 (C.Fn)**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カスタム機能設定画面になります。

カスタム機能番号

## 2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

設定内容

## 3 設定を変更する

- 〈▲▼〉を押して希望する設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面下でカスタム機能の設定状態を確認することができます。

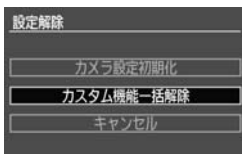
## 4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

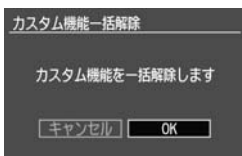
- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに〈C.Fn〉が表示されます。

## カスタム機能の設定をすべて解除するときは応用

### 1 ［設定解除］を選ぶ

- ［ 2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**設定解除**］を選び、〈SET〉を押します。

### 2 ［カスタム機能一括解除］を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［**カスタム機能一括解除**］を選び、〈SET〉を押します。

カスタム機能一括解除
カスタム機能を一括解除します
キャンセル OK

### 3 ［OK］を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して［**OK**］を選び、〈SET〉を押すとカスタム機能の設定がすべて解除されます。

# MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

## C.Fn-1　SETボタン/十字キー機能

撮影準備 状態における、〈SET〉と〈✥〉十字キーの機能 を変更することができます。

0：**通常**

1：**SET：記録画質**

〈SET〉を押すと、メニュー［**1 記録画質**］が直接表示され、迅速に設定の変更を行うことができます。

2：**SET：現像パラメーター**

〈SET〉を押すと、メニュー［**2 現像パラメーター**］が直接表示され、迅速に設定の変更を行うことができます。

3：**SET：画像の再生**

〈SET〉を押すと、CFカードに記録されている画像が再生されます。〈▶〉ボタンと同じになります。

4：**十字キー：AFフレーム選択**

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈✥〉十字キーで直接AFフレームを選ぶことが できます。〈⊞〉ボタン を押すと自動選択になります。また、〈SET〉を押すと中央のAFフレームが選択されます。

## C.Fn-2　長秒時露光時のノイズ低減

0：**しない**

1：**する**

ISO100～800のときは30秒以上、ISO1600のときは1秒以上の長秒時露光 やバルブ撮影を行っ たときにノイズを軽減 します。撮影後は露光時間と同じ低減処理時間が必要となります。処理中は「**buSY**」が表示され撮影できません。

## C.Fn-3　Avモード時のストロボ同調速度

0：**自動**

1：**1/200秒（固定)**

絞り優先 AE（Av）モードでのストロボ撮影で、シャッター速度を 1/200 秒に固定します。（夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、被写体の背景が暗くなります。）

## C.Fn-4　シャッターボタン/AEロックボタン

0：**AF/AEロック**

1：**AEロック/AF**

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出を固定）することができます。

2：**AF/AFロック（AEロックなし）**

AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう、〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：**AE/AF（AEロックなし）**

移動／停止を繰り返す被写体の撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

## C.Fn-5　AF補助光の投光

カメラのAF補助光、EOS用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：**する**

1：**しない**

撮影条件にかかわらず、AF補助光の投光を行いません。

2：**外部ストロボ使用時のみ投光する**

EOS用外部ストロボ使用時は、必要に応じて外部ストロボ側からAF補助光の投光を行います。内蔵ストロボ使用時は撮影条件にかかわらず、投光を行いません。

## C.Fn-6　露出設定ステップ

0：**1/3段**

1：**1/2段**

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEBなどの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

## C.Fn-7　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

近接（マクロ）撮影や望遠レンズを使用した撮影で、ミラーの作動によるカメラブレを防止するのに有効です。ミラーアップ撮影については、94ページを参照してください。

## C.Fn-8　E-TTL II 調光方式

0：評価調光

暗い場所から日中シンクロまでのストロボ撮影を、全自動で行うことができます。

1：平均調光

測光領域全体で平均的に調光します。カメラによる自動補正は行なわれませんので、状況に応じてストロボ調光補正を行ってください。また、FEロック時も状況に応じて調光補正を行ってください。

## C.Fn-9　ストロボのシンクロタイミング

0：先幕シンクロ

1：後幕シンクロ

遅いシャッター速度を設定したときに、光源の軌跡を写し込むことができます。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。同調（シンクロ）タイミング切り換え機能がないEXスピードライトで、後幕シンクロができるようになります。切り換え機能を持つEXスピードライトでは、ストロボ側の設定が優先されます。

後幕シンクロに設定したときは、シャッターボタンを全押しした直後に、調光制御のためにストロボがプリ発光します。そのあと、シャッターが切れる直前に本発光しますので、注意してください。

# 11

# 資料

カメラを快適に使っていただくために、この『資料』を設けました。撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行います。

# 撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能

| モードダイヤル | | | 簡単撮影ゾーン | | | | | | | 応用撮影ゾーン | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | □ | | | | | | | P | Tv | Av | M | A-DEP |
| 記録画質 | JPEG | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | RAW | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | RAW + L | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ISO感度 | 自動設定 | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | |
| | 手動設定 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ホワイトバランス | オートWB | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | プリセットWB、MWB、WB補正、WBブラケティング | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 現像パラメーター | | | ●（パラメーター1） | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| AF | ワンショット | | | ● | ● | ● | | ● | | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| | AIサーボ | | | | | | ● | | | ○ | ○ | ○ | ○ | – |
| | AIフォーカス | | ● | | | | | | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | – |
| | AFフレーム選択 | 自動 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| | | 任意 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 測光 | 評価測光 | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 部分測光 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 中央部重点平均測光 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 露出 | プログラムシフト | | | | | | | | | ○ | | | | |
| | 露出補正 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | AEB | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | AEロック | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | 被写界深度確認 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ドライブ | 1枚撮影 | | ● | | ● | ● | | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 連続撮影 | | | ● | | | ● | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 内蔵ストロボ | 自動発光 | | ● | ● | | ● | | ● | | | | | | |
| | 手動発光 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 発光禁止 | | | | ● | | ● | | ● | | | | | |
| | 赤目緩和 | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | FEロック | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ストロボ調光補正 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| カスタム機能/一括解除 | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| カメラ設定初期化 | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 撮像素子の清掃 | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

## AFモードとドライブモードの関係

| ドライブモード | AFモード | | |
|---|---|---|---|
| | ワンショットAF | AIフォーカスAF | AIサーボAF |
| □ 1枚撮影 | ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光の場合は、露出を固定します。（撮影前に露出を記憶） | 被写体の状態によってワンショットAFからAI サーボAFに自動的に切り換わります。 | 被写体の動きに合わせてピント合わせを続けます。露出は撮影する瞬間に決まります。 |
| 連続撮影 | 上と同じ条件で連続撮影になります。（1秒間に最高約3コマ）連続撮影中にピント合わせは行われません。 | | 上と同じ条件で連続撮影になります。（1秒間に最高約3コマ）連続撮影中もピント合わせが行われます。 |

## AEロックの効果

（撮影モードが応用撮影ゾーンのとき）

| 測光モード | AFフレーム選択 | |
|---|---|---|
| | 自動選択 | 任意選択 |
| 評価測光* | ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック | 選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック |
| 部分測光 | 中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック | |
| 中央部重点平均測光 | 中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック | |

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックします。

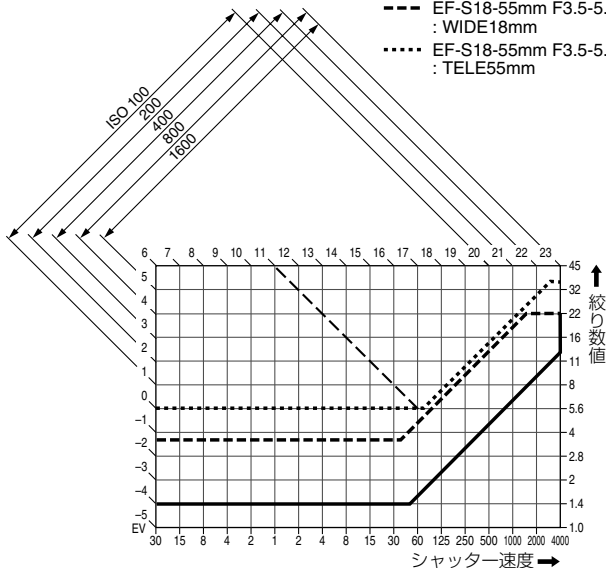
### 撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

撮影画面
（22.2×14.8mm）

35mm判フィルム撮影画面
（36×24mm）

# プログラム線図

〈**P**〉（プログラムAE）に設定したときのプログラム線図を示します。

## 図の見かた

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。

図の左端と上端に目盛られている被写体輝度（EV数値）の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせが線で示されています。

例：EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USMのレンズを使用したとき、被写体輝度がEV11の場合は、上端の11の位置から右下45゜の方向にのばした線とプログラム線図の交点を見ると、シャッター速度が1/60秒、絞り数値がF5.6に自動設定されることがわかります。左上の斜めに引かれた矢印が示す範囲は、ISO感度に対する測光輝度範囲です。

# エラーコード表示

カメラに異常が発生すると、表示パネルに「**Err xx**」が表示されます。エラーコードに応じて、以下の対応を行ってください。
頻繁にこのエラーコードが表示されるときは、故障ですので「**xx**」の数値を控えて別紙の修理サービスご相談窓口にご相談ください。
また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、〈▶〉ボタンを押して画像を確認してください。

| エラーコード | 対 応 |
| --- | --- |
| **Err 01** | カメラとレンズの通信不良です。<br>レンズの接点を清掃してください。（p.9） |
| **Err 02** | CFカードに問題があります。次のいずれかの対応を行ってください。CFカードの抜き差しを行う。CFカードを初期化する。別のCFカードに交換する。 |
| **Err 04** | CFカードの容量がいっぱいです。不要な画像を消去するか、十分な空き容量のあるCFカードに交換してください。 |
| **Err 05** | 内蔵ストロボの自動ポップアップを阻害しました。<br>電源スイッチ〈OFF〉→〈ON〉を行ってください。 |
| **Err 99** | 上記以外の異常が発生しました。<br>バッテリーの抜き差しを行ってください。<br>他社製のレンズを使用すると、カメラやレンズが正常に作動できず、このエラーが発生することがあります。 |

# 故障かな？とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理サービスご相談窓口にご相談ください。

## 電源

### バッテリーが充電できない

● 専用のバッテリーを使用していますか？
➡ バッテリーパックNB-2LHを使用してください。

● バッテリーチャージャーに正しく取り付けましたか？
➡ バッテリーパックを正しく取り付けてください。（p.20）

### 電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

● バッテリーが消耗していませんか？
➡ バッテリーパックを充電してください。（p.20）

● バッテリーを正しく入れましたか？
➡ バッテリーパックを正しく入れてください。（p.22）

● バッテリー室ふたが開いていませんか？
➡ バッテリー室ふたをしっかりと閉めてください。（p.22）

● CFカードスロットカバーが開いていませんか？
➡ CFカードスロットカバーをしっかり閉めてください。（p.26）

### 電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

● 撮影後、すぐに電源スイッチを〈OFF〉にしても、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。
➡ CFカードへの画像記録が終了すれば、アクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。

### バッテリーの消耗が早い

● バッテリーが十分に充電されていますか？
➡ バッテリーパックを十分に充電してください。（p.20）

● バッテリーの寿命ではありませんか？
➡ 新しいバッテリーパックをお買い求めください。

### 電源が勝手に切れる

● オートパワーオフ機能が働いていませんか？

➡ シャッターボタンを半押ししてください。オートパワーオフ機能が働かないようにするときは、メニュー［**ff1 オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

### 表示パネルに〈▭〉のみが点滅している

● バッテリーの残量が極端に少なくなっています。

➡ バッテリーパックを充電してください。（p.20）

## 撮影

### 撮影・記録ができない

● CFカードが正しくセットされていますか？

➡ CFカードを正しく入れてください。（p.26）

● CFカードがいっぱいになっていませんか？

➡ 新しいCFカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（p.26、116）

● バッテリーが消耗していませんか？

➡ バッテリーパックを充電してください。（p.20）

● ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅していませんか？）

➡ もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。（p.28、76）

### 液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

● ゴミやほこりがついていませんか？

➡ 眼鏡ふきや、やわらかい布などでふいてください。

● 液晶が消耗していませんか？

➡ 別紙のお客様相談センターにご相談ください。

### 画像がボケて写っている

● レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉になっていませんか？
➡ レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（p.25）
● シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしていませんか？
➡ 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください。（p.28、42）

### CFカードが使えない

● 表示パネルに［**Err xx**］が表示されていませんか？
➡［**Err CF**］のときは、118ページを参照してください。
➡［**Err 02**］のときは、155ページを参照してください。
● キヤノン製以外のCFカードを使用していませんか？
➡ キヤノン製CFカードの使用をおすすめします。（p.161）

## 撮影画像の確認・操作

### 画像を消去できない

● 画像にプロテクトをかけていませんか？
➡ プロテクトを解除してください。（p.115）

### 撮影年月日／時刻が正しく表示されない

● 日付/時刻が正しく設定されていますか？
➡ 日付/時刻を正しく設定してください。（p.37）

### テレビに画像が表示されない

● ビデオケーブルのプラグを根元まで差し込んでいますか？
➡ ビデオケーブルのプラグを、根元までしっかりと差し込んでください。（p.114）
● ビデオ出力方式（NTSC/PAL）が正しく設定されていますか？
➡ 接続する機器と同じ方式に設定ください。（p.34）
● カメラに付属のビデオケーブルを使用していますか？
➡ 付属のビデオケーブルを使用してください。（p.114）

## カメラダイレクトプリント

### プリントができない

● カメラとプリンターがきちんと接続されていますか？
➡ 指定されたケーブルでカメラとプリンターをきちんと接続してください。（p.122）

● プリンターの電源が入っていますか？
➡ プリンターの電源を入れてください。

### 用紙サイズに対して適切に印刷されない

● 用紙サイズの設定が正しく行われていますか？
➡ プリント設定画面で正しい用紙サイズを設定してください。
PictBridge接続のときは［**ペーパーサイズ**］（p. 125）、Bubble Jet ダイレクト接続のときは［**ペーパー**］（p. 132）で、プリンターにセットされている用紙サイズを選んでください。

# 主なアクセサリー（別売）

## バッテリーパック NB-2LH

小型・大容量のリチウムイオン二次電池パックです。

## ACアダプターキット ACK-DC20

家庭用電源キット（ACアダプター、DCカプラー、電源コード）です。AC100～240Vに対応しています。

## バッテリーグリップ BG-E3

NB-2LHを2個、または単3形電池を6本装填可能なバッテリーグリップです。縦位置用シャッターボタン、電子ダイヤル、AEロック/FEロックボタン、AFフレーム選択ボタン、露出補正/絞り数値設定ボタンを装備しています。

## セミハードケース EH18-L

カメラを保護するための専用ケースです。
カメラにEF-S18-55mm F3.5-5.6 II USMを付けたまま収納することができます。

## クリップオンタイプストロボ

アクセサリーシューに取り付けて使用するストロボとして、EXシリーズスピードライトがあります。ストロボなしの通常の撮影と同じ感覚で、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます。

## マクロストロボ

近接撮影用ストロボとして、EXシリーズマクロストロボ（2種類）があります。片側発光から、光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL II 自動調光で簡単に行うことができます。

RC-1　RC-5

## リモートコントローラー　RC-1／RC-5

カメラから約5m離れて撮影できるリモコン送信機です。RC-1は即レリーズまたは2秒後レリーズ、RC-5は2秒後レリーズができます。

## リモートスイッチ　RS-60E3

超望遠撮影、近接撮影、長時間露光（バルブ）撮影などにおけるカメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は60cm。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびレリーズロック機能を備えています。

## 視度補正レンズ E

内蔵の視度調整機能との組み合わせで、さらに調整範囲が広がる視度補正レンズEが10種類（－4dpt～＋3dpt）用意されています。

## CFカード

撮影した画像を記録するためのメモリーカードです。CFカードは、キヤノン製CFカードの使用をおすすめします。

## PCカードアダプター

CFカードをパソコンのPCカードスロットや、カードリーダーへ差し込むためのアダプターです。

# システムマップ

アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEf
視度補正レンズE
アイカップEf
アングルファインダーC
セミハードケース
EH18-L
バッテリーグリップ
BG-E3
NB-2LH用
バッテリーマガジン
BGM-E3L
単3形電池用
バッテリーマガジン
BGM-E3A
ST-E2
220EX
430EX
580EX
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
付属品
* レンズ付きキットには
EF-S18-55mmレンズが付属
ワイドストラップ
EW-100DBII
バッテリーパック
NB-2LH
日付／時計機能用
CR2016
リチウム電池
バッテリーチャージャー
CB-2LW
カーバッテリー
チャージャー
CBC-NB2
ACアダプターキット
ACK-DC20
DCカプラー
DR-700
コンパクト
パワーアダプター
CA-PS700

CFカード
CFカードリーダー
PCカードアダプター
コンピューター
Windows XP
(Home Edition / Professional)
Windows 2000 Professional
Windows ME
Windows 98 Second Edition
Mac OS X
PCカードスロット
USBポート
(2.0/1.1)
· EOS DIGITAL Solution Disk
· ArcSoft PhotoStudio Disk
· ソフトウェア使用説明書(PDF)
インターフェースケーブル
IFC-400PCU
PictBridge対応プリンター
ビデオケーブル
VC-100
CPプリンター
Bubble Jetダイレクト
対応 プリンター
リモートスイッチ
RS-60E3
EF-S
レンズ
EFレンズ
リモート
コントローラー
RC-1
リモート
コントローラー
RC-5
テレビ／ビデオ

# 主な仕様

## ■型式

型式……………ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体……………CFカード（タイプI、II準拠）
* マイクロドライブ、2GB以上のCFカード使用可
撮像画面サイズ……………22.2×14.8mm
使用レンズ……………キヤノンEF レンズ群（EF-Sレンズを含む）
(有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当)
レンズマウント……………キヤノンEF マウント

## ■撮像素子

形式……………高感度・高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数……………カメラ部有効画素：約800万画素
総画素：約820万画素
アスペクト比……………3：2
カラーフィルター方式……RGB原色フィルター
ローパスフィルター………固定式、撮像素子前面に配置

## ■記録形式

記録フォーマット……………DCF 2.0
画像タイプ……………JPEG、RAW（12bit）
RAW＋JPEG同時記録…可能
ファイルサイズ……………(1)Large/Fine ：約3.3MB（3456×2304画素）
(2)Large/Normal ：約1.7MB（3456×2304画素）
(3)Middle/Fine ：約2.0MB（2496×1664画素）
(4)Middle/Normal：約1.0MB（2496×1664画素）
(5)Small/Fine ：約1.2MB（1728×1152画素）
(6)Small/Normal ：約0.6MB（1728×1152画素）
(7)RAW ：約8.3MB（3456×2304画素）
* ファイルサイズは、被写体条件、ISO感度、現像パラメーターなどにより異なる
ファイル番号……………通し番号、オートリセット
色空間……………sRGB、Adobe RGB
現像パラメーター……………パラメーター1、2、セット1～3（任意設定した現像パラメーターを3件登録可能)、モノクロ
インターフェース……………USB 2.0 Hi-Speed（印刷/PTP／PC接続選択可能）
ビデオ出力（NTSC／PAL選択可能）

## ■ホワイトバランス

種類……………オート、太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ、マニュアル
オートホワイトバランス…撮像素子を用いたオートホワイトバランス

色温度補正 ........................ホワイトバランス補正：1段ステップ±9段
ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段
* ブルー／アンバー方向、マゼンタ／グリーン方向に補正可能
色温度情報通信.................対応

## ■ファインダー

方式...................................ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率...............................上下／左右とも95%
倍率...................................0.8倍（50mmレンズ・∞・－1dpt）
アイポイント...................21mm
視度調整範囲....................－3.0～＋1.0dpt
フォーカシングスクリーン...固定式、プレシジョンマット
ミラー...............................クイックリターン式全面ハーフミラー
（透過：反射=40：60、ミラー切れ：600mm F4までなし）
ファインダー情報.............AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、AEロック、露出レベル表示、AEB撮影中、露出警告）、ストロボ情報（充電完了、赤目緩和設定、赤目緩和ランプ点灯、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光補正）、連続撮影可能枚数、CFカード情報
被写界深度確認.................絞り込みボタンによる

## ■オートフォーカス

方式...................................CMOSセンサーによるTTL-CT-SIR方式
（TTL二次結像位相差検出方式）
測距点...............................7点
測距輝度範囲....................EV0.5～18（常温・ISO100相当）
フォーカスモード.............ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AFフレーム選択................自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示........ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光..........................内蔵ストロボ間欠発光方式
有効距離：中央部 約4m／周辺部 約3.5m

## ■露出制御

測光方式...........................35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約9%）
・中央部重点平均測光
測光範囲...........................EV1～20（常温・50mm F1.4使用・ISO100相当）

露出制御方式 ..................... プログラムAE（全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先 AE、自動深度優先AE、マニュアル露出、E-TTL II自動調光
ISO感度 ............................ 簡単撮影ゾーン：自動設定（ISO100～400相当）
応用撮影ゾーン：ISO100、200、400、800、1600相当
露出補正 ............................ 手動 ：1/3、1/2段ステップ±２段（AEB併用可能）
AEB：1/3、1/2段ステップ±２段
AEロック .......................... 自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる（すべての測光方式で可能）

### ■シャッター

形式 .................................... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度 ................ 1/4000～ 30秒（1/3、1/2段ステップ）、バルブ
X=1/200秒
レリーズ方式 ..................... ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー ................ 10秒後撮影
リモコン ............................ リモートスイッチRS-60E3
リモートコントローラー RC-5/RC-1対応

### ■内蔵ストロボ

形式 .................................... リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
調光方式 ............................ E-TTL II自動調光
ガイドナンバー ................ 13（ISO100相当・m）
充電時間 ............................ 約3秒
充電完了表示 ..................... ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯
照射角 ................................ レンズ表記焦点距離17mm相当の画角に対応
FEロック .......................... 可能
ストロボ調光補正 ............. 1/3、1/2段ステップ±２段

### ■外部ストロボ

EOS用ストロボ ................ EXシリーズスピードライト使用時、E-TTL II自動調光
画面サイズ対応ズーム ...... 対応

### ■ドライブ関係

ドライブモード ................ 1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー/リモコン
連続撮影速度 ..................... 最高約3コマ/秒

連続撮影可能枚数.............JPEG（Large/Fine）：約14枚
RAW：約5枚、RAW+JPEG（Large/Fine）：約4枚
* キヤノン純正512MB CFカード使用時
* 被写体条件、ISO感度、現像パラメーター、CFカードなどにより異なる

### ■液晶モニター

形式..................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ........................1.8型
画素数...............................約11.5万画素
視野率...............................約100%
輝度調整............................5段階に調整可能（グレーチャートを同時表示）
表示言語............................15言語

### ■再生機能

画像表示形式....................1枚（情報あり/なし）、撮影情報、9枚インデックス、拡大ズーム（約1.5倍～10倍）、オートプレイ、および画像回転、ジャンプ（10枚/100枚/日付）
ハイライト表示.................撮影情報表示のとき、画像情報のないハイライト部分を点滅表示

### ■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト........................1枚単位でプロテクト、解除
消去..................................1枚、またはCFカード内全画像の単位で消去（プロテクト画像を除く）

### ■ダイレクトプリント機能

対応プリンター.................CPダイレクト、Bubble Jetダイレクト、およびPictBridge対応プリンター
プリント対応画像.............JPEG画像（DPOF指定画像のプリントも可能）
簡単プリント機能.............あり

### ■プリント指定機能

DPOF...............................バージョン1.1準拠

### ■カスタマイズ機能

カスタム機能....................9種24項目

### ■電源

使用電池............................バッテリーパックNB-2LH、1個使用
* ACアダプターキットACK-DC20使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E3装着時、単3形電池使用可能

撮影可能枚数 ...................... ［枚］

| 温度 | 撮影条件 | |
|---|---|---|
| | ストロボ撮影なし | 50%ストロボ撮影 |
| 常温（＋20℃） | 約600 | 約400 |
| 低温（0℃） | 約450 | 約350 |

* フル充電のバッテリーパック NB-2LH使用時
* CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による

バッテリーチェック.......... 自動
節電機能............................ あり、設定時間（1/2/4/8/15/30分）経過で電源切
日付/時計機能用電池....... CR2016リチウム電池、1個使用

### ■大きさ・質量

大きさ................................ 126.5（幅）×94.2（高さ）×64（奥行）mm
質量.................................... 485g（本体のみ）

### ■動作環境

使用可能温度 ..................... 0℃～＋40℃
使用可能湿度 ..................... 85%以下

### ■バッテリーチャージャー CB-2LW

充電可能バッテリー.......... バッテリーパックNB-2LH
充電時間............................ 約90分
定格入力............................ AC100～240V（50/60Hz）
12VA（100V）～15VA（240V）
定格出力............................ DC8.4V、0.55A
使用可能温度 ..................... 0℃～＋40℃
大きさ................................ 91（幅）×56（高さ）×22.5（奥行）mm
質量.................................... 約68g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

# 索　引

## 英数字



## あ



## か

## さ



## た

Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社　〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

## お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスについては、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店、または別紙の各相談窓口にお問い合わせください。

## アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理サービスご相談窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

## キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社
canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2005年1月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、別紙のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5185 - 002

PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0